

# りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

NO.  
255

2014  
JANUARY

巻頭  
特集

伝え継ぐ、日本の伝統を支える立命館大学校友

Brilliance  
輝くひと  
87

心技体の三位一体でつかむクイーンの座  
競技かるた永世クイーン  
楠木 早紀 さん (12産社)



# 伝え継ぐ

日本の伝統を支える立命館大学校友

日本の暮らしや美意識とともに  
発展してきた伝統産業。

立命館大学には日本人の心を伝える  
この世界を支える校友たちがいます。

特集では、次代への継承という課題に向き合い、  
誇りを持って日本の伝統産業を守る  
校友たちの活動を紹介します。



## 手間ひま惜しまぬ素材選びが生む逸品

茶ノ湯竹器師 黒田和孝さん（'91文） Kazutaka Kuroda



蓮華形指柄杓。写真奥は初代の、手前は四代黒田宗傳の作。  
写真提供: **Auto Factory** フランニング事業部



竹の茶道具を製作する「竹器師」。三千家に入入りする十の職家「千家十職」の流れを汲む竹器師、四代目黒田宗傳が黒田和孝さんだ。

竹器師の仕事は、秋に竹藪に入って、竹を選び出すところから始まる。伐り出した真竹を数カ月かけて水抜きし、春になると炭火で炙って「油抜き」。油抜きの後、およそ1カ月間毎日天日に干して白くなった竹は、最低でも4、5年は納屋で寝かせる。時には数十年寝かせることもあり、年月を経て残ったものだけが素材として認められる。素材選びがすべてを決めると言っても言い過ぎではない。

ようやく素材として合格しても、良い部分だけを選びすぎるため、1本の長い竹から作ることができるのは長さ30cm程度の柄杓の柄にしてたったの1、2本。手間とひまをかけた最高の材料を使って、一つひとつ丁寧に削り出された作品は、

繊細さと力強さを兼ね備え、凛とした美しさでその場の空気を引き締める。

父である先代の姿を間近に見て育った黒田さんは、小学生の頃から自然と竹器師を志すようになり、大学卒業後すぐにこの道に入った。他の土地では珍しい、茶道文化の根付く京都ならではの職業と言える竹器師だが、その京都においてさえ、現在では5、6名しか残っていないという。機械の力を借



### 手仕事七つ道具

竹を削る細かな手作業に欠かせない小刀の数々。写真奥は、かんな。竹器師の間でも、かんなを使った昔ながらの方法を受け継ぐ職人は数少ない。

ることが当たり前の中であって、黒田さんのようにすべての工程で手仕事にこだわる職人は、なおさら希少な存在だ。

茶杓や棗、香合に花入。竹を使った茶道具は様々にあるが、黒田家は特に柄杓を得意とし、高度な技術が要求される昔ながらの手法を守る。流派により120種類ほどある柄杓の中でも、最も作るのが難しいと言われるのが蓮華形指柄杓。千利休好みとされながら、300年間誰も成功できなかったこの柄杓の製作に初めて成功したのが、黒田さんの曾祖父である初代黒田宗傳だ。2011年の襲名にあたって黒田さんもこの秘伝の技術に取り組み、技を受け継いだ。

「茶道具とは、飾っておくものではなく、茶席の中で使っていただくもの。すべての道具の取り合わせの中の一つなのだから、それだけが芸術品のようにもありません。竹は華やかさには欠けます。けれど、削り目や色合い、なん



### Profile

くろだ・かずたか

'68年生まれ。'87年、半床庵（久田宗也宗匠）入門。'91年、立命館大学文学部卒業。同年、家業に就き先代に師事。'11年、四代黒田宗傳襲名。'13年、阪急うめだ本店にて襲名記念展。奇竹堂黒田宗傳（075-231-2765）。

でもないような竹そのものの姿にこそ見どころがたくさんある。それを楽しんでもらえるとうれしいですね。「やってみたくらいがいっぱい」という黒田さんは、伝統の手仕事を大切にしながら、蒔絵など異素材のものを取り入れ、今までにない作品に挑戦している。「最近では機械の性能も向上し、質の良いものが大量に生産できるようになりました。それでも、手作りにしか出せない味わいというものは必ずあると信じています。次の世代に伝えていくために、大切なのは、私たち職人が手仕事の良さを信じ、技を磨き続けていくことだと思っています」。



## 柔軟な精神と頭脳が結実した新世代の焼き物

京焼・清水焼作陶家 高島慎一さん（'96院理工） Shinichi Takashima

京都、そして国を代表する伝統工芸品の一つとして広く知られる京焼・清水焼。かつて都が置かれた京都では、公家や宮家、茶人など、富と財のある者たちによって全国から優秀な職人が集められ、それぞれの好みに応じた焼き物が作られるようになった。そんな歴史を背景に、土味に富んだ自然の温かみあふれるものから、鮮やかな色づかいの雅やかなものまで、作家たちの細分化された技法により、ありとあらゆる種類が取り揃うのが京焼・清水焼の特徴だ。

2006年に三代目高島洗春を襲名した高島慎一さんが作るのは、色鮮やかな釉薬を使った交趾技法と、粘土を絞り出して絵付けする一珍技法を用いた磁器作品。あでやかな美しさをまとった伝統的なもの、作り手の遊び心に富んだ現代的感覚にあふれるものと、多彩な表情で京焼・清水焼の新しい世界観を示している。

成形から絵付け、焼成まで、すべての工程を作家独りでこなすのは分業が進んだ窯元の世界では少数派だが、「作品に名を入れる以上、焼き上がりの一瞬まで責任を持ちたい」と、





手仕事七つ道具

中央は、一珍技法に欠かせない絞り袋の「かっぱ」。微妙な力加減で強弱をつけ、一線々々正確に描き出す。左はうつわの口径や深さを測る「トンボ」。

自らの手にこだわる。新しい絵柄を考案する際、着想の強い味方は女性のファッション。華やかな女性の装いは、模様や配色のヒントを与えてくれる。そのため普段から広告や百貨店の女性物売り場などはこまめにチェック。同時に、美術館などの展覧会にも足を運び、過去の名品から古典を学ぶことも欠かさない。

高島さんが焼き物を始めたのは25歳の頃。大学院を卒業して一度は企業に就職したが、「自分のいる場所はここ」と陶芸に心を定めた。学生時代の専門は微生物学。一見関わることの無いように思える陶芸と化学だが、釉薬の特性や色反応を考える時、化学の知識は大きな助けになっている。また、最近では作品のプレゼンを求められることも多いが、そんな時、学会で論理的に相手に訴えるための方法を叩き込まれてきた大学院生の頃の経験が活かされる。「職人は良いものさえ作ってあげれば良い。そんな時代がこの世界にも長くありましたが、今はいろんなスキルをフルに活用して初めて勝負でき



Profile

たかしま・しんいち

’72年生まれ。’96年、立命館大学大学院理工学研究科修士課程修了。’99年より先代に師事。’06年、三代高島洗春襲名。京焼・清水焼展復数回入賞。’12年、京焼・清水焼伝統工芸士および京都市伝統産業「未来の名匠」認定。洗春窯 (075-561-5388)。



る時代。遠回りだったかもしれませんが、学生時代には今に十分通じることをたくさん学ばせてもらいました」。

他の伝統産業と同様、機械化の波が押し寄せる京焼・清水焼の世界も今、厳しい時代を迎えている。そんな中、高島さんはうつわとしての焼き物にとどまらず、照明や壁面のタイルなど建築素材としての可能性も探り、建築士や国内外のメーカーと協力しながら商品開発に取り組んでいる。「伝統というを守るべきものという印象が強いけれど、それだけではありません。京焼・清水焼の世界で言えば、色鮮やかな焼き物は400年間受け継がれてきた今でこそ伝統とされますが、野々村仁清や尾形乾山らがそれを考案した江戸時代には非常に革命的なことでした。『伝統とは変わり続けること』という言葉は真実で、革命の連続でなければ後世に残らない。わたしたちが守り伝えるべきは、先人から受け継いだ智恵。それを使ってどう新たな表現ができるのかを考えて、変化を恐れず前に進んでいきたいですね」。

## 京都の暮らしに息づいた文化を活性化させ、次代の手に

NPO法人京都古布保存会理事長 似内恵子さん(77法) Keiko Nitanoi

京都の生活文化全般の活性化を図ろうと保存活動を進める団体がある。和文化コンサルタントで服飾研究家の似内恵子さんが理事長を務めるNPO法人京都古布保存会だ。着物などの古布の保存から活動を発展させ、京都の町に息づく様々な文化を研究している。

保存会が現在取り組むのが『舞妓プロジェクト』。花街の表舞台に立つ舞妓の陰には、着物や帯留め、かんざしといった舞妓独特の衣装や小物を作る職人たちの世界が大きな産業となって広がっている。舞妓プロジェクトは、こうした舞妓の小道具に関わる職人の世界を調査することで、京都の伝統産業への理解を深め、保存につなげようと6月に発足。似内さんのほか、立命館大学文学部講師の山本真紗子さん、立命館大学出身で京都造形芸術大学専任講師の田中圭子さん、先端総合学術研究科に現在在籍中の松田有紀子さんと、いずれも立命館にゆかりを持つメンバーが集まり、プロジェクトを進めている。

プロジェクトは、老舗小道具店の経営者や職人への聞き取り調査を中心に進められ、先日は、京うちわや舞扇を製造する「小丸屋 住井」で約1時間の取材を行なった。品質を保ちながら価格を据え置くための工夫や、業界全体の質の維持と発展を考えて、店の技術や業界のしきたりを同業者にも惜しみなく伝えていることなど、メンバーは伝統を守るための老舗の知恵と誇りを店主の住井啓子さんから教わり、京うちわを取り巻く現状を学んだ。



「守るべきところは守りながら時代に合わせた変化を続けていく。伝統産業に関わるすべての人が目指す姿



プロジェクトを進めるメンバーたち(写真右から2番目が似内さん)

勢があった」と調査の実感を松田さんは話した。

前年度は、舞妓と並んで京都を代表する「美」のテーマと言われる大原女文化の保存活動にも取り組み、昨冬その成果発表も行なった。「京都に対するイメージはそれぞれに持っているけれど、意外にちゃんと知らないもの。この活動が、過去から現代へと広がり何かを知るきっかけになれば」と田中さん。山本さんは「身近すぎると大切なものが見えなくなってしまうことがある。文化を遺す活動を今しっかりしなくてはならないと、プロジェクトを通して改めて気付いた」と活動への思いを語る。2014年には、舞妓プロジェクトの成果をまとめた展示の開催と冊子の発行も予定している。「伝統産業の世界はどれも後継者不足が悩み。そういった世界は、一般の方にとっては一見間口が狭そうに見えるもの。その間口を広げ、風通しを良くしていくことが、伝統を残す糸口になるのではないのでしょうか。私たちの活動がそのきっかけづくりになるよう、これからもさらに活発化させていきたい」と似内さんは話している。



お知らせ

2014年2月14～28日、京都府庁旧本館で舞妓プロジェクトの調査報告を展示予定(日・祝休み)。また5月3～25日には、京都市中京区のギャラリー「ARTZONE」で、調査報告に加えて小道具等の展示や、着付け体験なども実施予定です。



## 「きっとできる」で チャレンジし続ける



ボッシュ株式会社取締役副社長

**森川 典子** さん ('81産社)

### 革新的なものづくりで より良い社会に

高品質な自動車部品や電動工具で知られる「BOSCH(ボッシュ)」。F-1レースの世界でも目にするそのロゴマークは、クルマ好きなら知らない人はいないだろう。従業員約30万を擁するグローバル企業の日本拠点となる「ボッシュ株式会社」を、取締役副社長としてリードするのが森川典子さんだ。

**森川** ドイツに本社を置くボッシュは、自動車部品や産業用機械などの開発・製造事業を世界で展開する企業です。特に、自動車産業が発展している日本では、全体の売上げの9割近くを自動車機器事業が占めています。ほかにもパッケージング機械や油圧、防犯カメラなど幅広く手がけています。

Invented for life. 当社のスローガンであるこの言葉には、「革新的なものを生み出して人々の生活を豊かに」という思いがあります。その精神の下に、ボッシュは株式を上場していません。短期的な利益をねらった金融市場に左右されるのではなく、中長期的に将来を見て、自分たちが信じ

る技術に投資するという方針を貫いているからです。また、創業者ロバート・ボッシュの言葉に「信頼を失うぐらいなら、お金を失う方がいい」とあるように、当社は常に信頼を第一に考えた、社会に貢献できるものづくりを目指しています。

ボッシュは、メーカー側から頼まれたものをただ作るのではなく、「次はこんなものが必要になってくるのではないか」と提案をする、同業種間で唯一の「提案型企業」と言われています。ドイツでは、自動車メーカーと部品企業は、ほぼ対等。日本でもその風土を受け継ぎ、日頃からメーカー側とコミュニケーションを重ね、メーカーが求めるものとどまらず、さらに良いものにするために、こちらからも積極的に提案しています。これはより革新的なものを求めて研究を続けてきた成果の表れでもあります。

2011年はボッシュにとって、創業125周年、日本進出100周年、創業者生誕150周年という「トリプルアニバーサリーイヤー」でした。けれどそれはちょうど東日本大震災という悲しい出来事が発生した年でもありました。当社は計画していたアニバーサリープログラムを中止し、被災地の支援にあたりました。仮設保育所として活用してもらうコンテナハウスの寄贈や、「実際に現地に行って支援したい」という社員の声から始まったガレキ撤去などのボランティアをはじめ、様々な活動を社員一丸となって行ないました。こうした活動を含め、「社会に奉仕することで、みんなが豊かになり、人材が育成される。優れた人が企業の一員となり活躍することで、企業は利益を生み、また社会奉仕できる」という「奉仕循環型社会」の創業理念を实践し、企業の利益を広く社会に還元する活動も進めています。

### 女性だからぶつかった壁があり、 今のわたしがある

その華々しい経歴に、きっと学生時代から高い志を胸に突き進んできた人なのだろうと想像していた。しかし本人

に言わせると、決してそんなタイプの人間ではなかったという。「今のような自分を、学生時代には想像もしていなかった」と。森川さんの「チェンジ」のはじまり、それは日本社会に根付いた壁にぶつかったことだった。

**森川** 大学を卒業後、商社に就職。最初に配属されたのは経理部で、2年目になると入社してきた新卒の男性を指導するよう言われました。そして3年目、上司から「これから彼が君の上司になる」と言われたのです。彼が私にとって上司として尊敬したいと思える人だったら納得できましたが、そうじゃなかった。それまでは意識していなかったのですが、男性が優位な会社の状況だったのです。「このままで人生終わらせたくない」。それで思い立ったのが留学でした。仕事を辞めて、アメリカに飛び立ちました。

勢いよく飛び出してみたものの、よくある話ですが最初は英語がまったくできなくて(笑)。1年目はとにかく語学力をつけようと猛勉強しました。そうして2年目には大学の授業もほとんど理解できるようになり、そのまま大学院まで進みました。学び続けているうちに、だんだん仕事がしなくなってきて、証券会社に就職。昼は仕事、夜は学校という生活を送りながらMBA(経営学修士)を取得し、大学院を卒業しました。

その後いったん帰国し、アメリカの公認会計士の資格取得を目指しながら米系会計事務所に就職。そこでの仕事を評価されて米系企業から呼びかけられ、転職。シンガポール、香港赴任を経て、再び日本に戻りました。時には女性管理職に対する日本のメンタリティの違いに苦労することもありましたが、仕事も面白く夢中になり、CFO(最高財務責任者)に至りました。けれど50歳を前にして、あと10年ここで同じ仕事をし続ける自分を想像した時、「そ



れはない」と強く思ったのです。当時勤めていた会社は素晴らしく、私を育ててくれたことにとっても感謝していましたが、「もうここではこれ以上私には伸びしろがない」と感じたのです。それで「いま外はどうなっている？」と目を向けて、出合ったのがボッシュでした。ボッシュ以外にもいろんな企業に出会いましたが、心が動かされるほどではありませんでした。ボッシュのポジションは、財務・経理以外（人事、IT、購買、法務等）も所管するチャレンジなポジションかつ、私のこれまでの経験を通して、次世代に対して貢献することができるポジション。「自分たちが信じることをする」、この精神にも惹かれるところがあり、新たな挑戦を決意しました。

### キーワードは「多様性」

日本が、日本人が、グローバルに発展していくための鍵になるものとは。グローバル企業のトップとして森川さんが考えるのは…

森川 様々な文化をバックグラウンドに持つ仲間が集まる環境に身を置いてきた経験から、社会で活躍するために一番大切だと感じるのは、自分の意見を持って、それをちゃんと発信すること。ミーティングに参加して、必死にメモを取って帰ろうとしたら、海外からの参加者に「君は泥棒だ」と言われたという日本人の話聞いたことがあります。「知識だけ持って帰って、なにも貢献しなかったね」と。意見を言い合わなければ、何も生まれません。私自身、会合などに出席して自分の意見を述べると、出席していた方から「Thank you for your contribution（貢献してくれてありがとう）」と言われることが多々あります。「私ならこうする。こう思う」ということを、文化背景の違う相手に、過大も過小もすることなく正しく伝えるにはどうすればいいのか、それを常に心がけることが必要です。

グローバル化が進んだ今の社会はとても複雑です。そんな社会で企業が発展するためのキーワードは「多様性」。同じような人ではなく、日本人の中でも老若男女様々な人が集まると、アイデアが出て相乗効果を呼びます。そこに異文化が加わればなおさらです。けれどその前に、それぞれが相手の意見を尊重するという基本的な心を持っていなければ、なにも生み出すことはできません。

組織のリーダーとして特に必要だと感じているのは「巻き込み力」。人は他人事には興味がありませんが、我が事となると真剣に考える。だからいかに巻き込んで「一緒に解決しなきゃいけない」という気持ちにさせるか。難しい課題になるほど、様々な人、ファンクション、国を巻き込んで調整をしながら前に進めなければいけません。この力は、昨今のように垣根の低くなったグローバル社会では非常に大切だと考えています。

日本を代表する女性リーダーの一人に至る陰には、女性として幾度となく壁を乗り越えてきた姿がある。女性をもっと輝ける社会を実現するために、いま日本に何が必要なのか。

森川 最近、女性の社会進出を図る制度が進み、現在どの企業もサポートの仕組みはわりと出来てきています。問題は、その仕組みが使いやすい環境になっていないということ。現場がまだ慣れていないのです。そんな現場の意識をどうやって改善できるのか、私は教育の場で変えていかなければならないと思っています。男女や文化、様々な違いを尊重できる環境は、まず教育の場から作らなければいけません。日本社会では、意見を言わないのが習慣になり、言わなくていいから考えない。負のスパイラルができてしまっています。ぶつからないのはい見幸せそうに見えるかもしれませんが、本当は、意見を述べやすい環境、異なる意見を受け入れる環境こそ、多様性のある、幸せな社会だと言えるのではないのでしょうか。

### あなた次第で広がる世界

小さな体にみなぎる、新しいステージへ飛び出そうとするパワー。挑戦することを恐れない。学生時代に目覚めた「可能性を信じる気持ち」が森川さんを強くしてきた。

森川 留学は私の人生での大きな転機。世界に飛び出すなんて、思いもよらないような行動だったけれど、でも「きっとできる」と信じていました。その基盤となったのは大学時代の経験です。ある時友人がバイクに乗っているのを見て、自分も乗ってみたいくなりました。小柄な私には無理だと思いつつも、心のどこかで自分を信じて、6回目で大型二輪の限定解除試験に合格。その時「私にもできるんだ」と、自分の可能性を信じる気持ちが目覚めたように思います。



私が一緒に仕事をしたと思うのは、チャレンジしようという気持ちを持った人です。仕事というのは急に大きなことはできません。けれど上司は、結果だけでなく、そこに至った経過や努力も見ています。チャレンジし続けていれば、その姿にポテンシャルを認めてくれるはず。だからこつこつと、目の前のことに全力で向き合っていきたい。あなたのキャリアのオーナーシップはあなた自身にあるのです。近ごろ、「待遇は良くならないのに責任ばかり増えて、いいことなんて一つもない」と、マネージャーになるのを嫌がる人が増えているといいます。私はそんな人に「いいこと、いっぱいあるよ」と伝えたい。チームとしての達成感、部下が育った時の充実感、そして知らなかった世界が次々に見えてくる楽しさ。そんなたくさんのいいことを自分から放棄するなんてもったいない。世界を広げられるかどうかは自分次第ということをお忘れず、どんどん前に進んでほしいですね。

私が一緒に仕事をしたと思うのは、チャレンジしようという気持ちを持った人です。仕事というのは急に大きなことはできません。けれど上司は、結果だけでなく、そこに至った経過や努力も見ています。チャレンジし続けていれば、その姿にポテンシャルを認めてくれるはず。だからこつこつと、目の前のことに全力で向き合っていきたい。あなたのキャリアのオーナーシップはあなた自身にあるのです。近ごろ、「待遇は良くならないのに責任ばかり増えて、いいことなんて一つもない」と、マネージャーになるのを嫌がる人が増えているといいます。私はそんな人に「いいこと、いっぱいあるよ」と伝えたい。チームとしての達成感、部下が育った時の充実感、そして知らなかった世界が次々に見えてくる楽しさ。そんなたくさんのいいことを自分から放棄するなんてもったいない。世界を広げられるかどうかは自分次第ということをお忘れず、どんどん前に進んでほしいですね。

### Profile



### Noriko Morikawa

- 1981年 立命館大学産業社会学部 卒業  
蝶理株式会社 入社
- 1984年 同 退職、アメリカへ
- 1987年 モントクレア州立大学 卒業  
大学院に進学し、アメリカ大和証券株式会社に勤務しながらMBAを取得
- 1988年 カレッジ・オブ・インシュランス卒業
- 1991年 帰国後、アーサーアンダーセン会計事務所入社
- 1995年 モトローラ株式会社 入社  
シンガポール、香港赴任後、取締役経理財務担当に就任
- 2009年 ボッシュ株式会社 入社  
ドイツ赴任を経て
- 2010年 取締役副社長  
現在に至る

学生時代は、立命館モーターサイクルクラブに所属。  
現在、出身地である愛媛県四国中央市のふるさとアドバイザーも務める。

2013年度立命館大学校友会東日本大震災復興支援事業

# 「東北応援ツアー」 参加レポート

## 被災地の今を学んで

校友会東日本大震災復興支援特別委員 田邊 裕 さん('99経営)

本年度で2回目の実施となる「東北応援ツアー」で岩手県を訪れた。岩手県の被災状況については、マスコミなどの映像や写真を通じて知っていたが、実際に現地を訪問するのは初めてであった。

前回よりもさらに充実した内容にするため、今回のツアーでは東北3県の校友の方々とともにコースを検討し、岩手県コース



奇跡の一木松 (車窓から撮影)

スにおいては、沿岸部の被災地での震災学習を中心に内陸の遠野をめぐるコースとなった。

花巻を出発し、バスが沿岸部にさしかかると、車窓から津波で流された集落の眺めがいくつも過ぎてゆく。そんな光景がずっと続くので、自然の恐ろしさを改めて

知ると同時に、言葉にならない恐怖が心をよぎった。バスの添乗員の方は、ご両親や友人が沿岸部にお住まいだったようで、周辺の状況について詳細に説明する最中に何度も声をつまらせ、涙をこらえながら職務に徹する姿が印象的だった。

今回訪れたところはいずれも強く心に残っているが、中でも陸前高田での経験はとて強烈なものだった。陸前高田のランドマーク的存在であった道の駅の前で、写真



陸前高田市の津波被害に遭った道の駅

などを見ながら、震災語り部として活動されている方から震災時の状況についてうかがった。

東日本大震災の被災地の活性化に貢献することを目的とした、校友会「東北応援ツアー」。昨年に引き続き、今年も岩手県、宮城県、福島県の3県4コースで実施され、一般81名、現地校友31名、総計112名の参加者が震災について学びました。今号の震災関連記事では、ツアーに同行した東日本大震災復興支援特別委員の今中智幸さん('94法)、田邊裕さん('99経営)によるレポートをお伝えします。

2013年11月2～3日  
岩手県コース

「駅前の商店街には電気店やスーパーがあって、いつも買い物はこのあたりで済ませていた」と指し示された方向には、ガレキがきれいに撤去され、草の生えた土地が広がっているだけ。ふと見る

と、その近くにボツンと4階建てのビルが残っていた。屋上には「忘れないよ みんなと暮らしたこの町」と書かれた看板が掲げられている。町は跡形もなく流れ去ってしまったが、ここに住んでいた人の心には今もその当時の町並みをはっきりと残っている。駅のあった場所を歩くたび、商店街のあった場所を歩くたび、震災前の情景が浮かんでくる。しかし、眼前には自分たちの町はない。もし自分が住んでいる町で、このようなことが起ったら。そんなことを考えていると、自然に涙があふれていた。そのような状況の中、被災された方々はしっかりと前を向き、自分たちの住んでいた町の復興に取り組んでいる。その姿に私は強く心を打たれた。

ツアーの最後には、民話の里・遠野を訪問。遠野地方に伝わる民話を語り部の方からお聞きした。座敷童子や河童など妖怪にまつわるものが多く、恐ろしいところがありながらもユーモラスで、昔の人々の教訓を伝える民話はどこか郷愁を感じさせるものであった。

豊かな自然と心温かい人々が暮らす岩手県。震災の傷跡が今もなお生々しく残る現状を知ると同時に、観光の面からの魅力も再認識することができた。復興道半ばの状況の中で、我々にできることは限られるかもしれないが、そこで得た情報や感じたことを忘れず、これからも被災地の方々に寄り添っていくことが必要だと強く感じた。



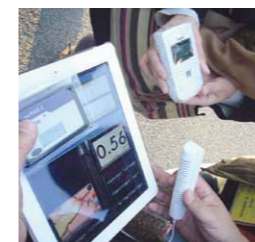
震災前の写真から、かつての町を偲ぶ

## 現地を訪問して思うこと

校友会東日本大震災復興支援特別委員 今中智幸 さん('94法)

この相馬コースは、今年3月に仙台で行なわれた第4回復興支援特別委員会において、東北三県校友会の皆様との意見交換で、私が担当させていただいた福島県校友会の皆様とお話したところ、福島県のみが抱えている問題、つまり「放射能」についてもっと感じてもらいたいというご意見を反映させたものである。放射能は目に見えるものではなく、「危ないもの」という印象がある。さらに、立ち入り禁止区域が緩和されたとはいえ、まだ観光バスで入れるようなところは少ない。現状においてより実感できる場所を検討した結果、風向きの影響により放射線レベルが高い数値で確認されている国道を通過して、相馬港から宿泊先である奥飯坂穴原温泉に向かうことに決めた。

相馬港では、黙祷の後、県職員の方や京都府から短期派遣で来られている校友より津波被害や復興の状況についてうかがい、また、港の近くで経営する味噌醤油店が被災した立谷健二さん('75法)から、地震から津波発生までの危機一髪で避難された生々しい体験談をお聞きした。



ガイガーカウンター

相馬港からの道中、有名なアイスクリーム屋で休憩した際に、校友が持参した線量計(ガイガーカウンター)で放射線量を測定してみると、出発前に立ち寄った道の駅で測定した値よりも確かに高い数値を表し



相馬港湾

ていた。この道の左右には、未だ処分先が決まらず仮置きされている除染土が入った黒い袋が、いたるところに山積みされている。なぜこの道路に放射線が溜まりやすくなっているのか、震災直後から現在までどんな経験をしてきたのかなど、地元校友のお話を聞きながらバスを進めていった。

宿舎での勉強会では、富田良夫顧問('67法)や桑原勇健会長('69理工)のお話があり、お二人には参加者からの質問にも熱心にお答えいただいた。被災された方の生の声をうかがった中で、一番印象に残ったのは、広島で被爆された参加者の方と桑原会長が同様に、「放射能は正しい知識を身につければ怖くない」とおっしゃったこと。それを知らない我々は、風評に踊らされているのだということを改めて認識した。

2日目は、果樹園やまると、より良いりんご作りで差別化を図り、風評被害を払拭しようとする取り組みについてうかがい、一つひとつ丁寧に育てられたりんごを堪能。その後、智恵子記念館を見学し、二本松城では、燃え盛った紅葉に映える菊人形展を鑑賞するなど、観光を楽しむこともできた。参加された方に応募のきっかけを尋ねると、「現地を見てみたい気持ちはあったが、どうして良いのかわからないところに、この復興応援ツアーの募集が目にとまった」とのこと。立命館の校友の絆は、他のどの大学よりも強いということを実感した。来年も被災地校友会ならびに全国の校友の思いを受け、この強い絆がより実感できるツアーを計画していきたいと思っている。

2013年11月16～17日  
福島県・相馬コース



勉強会



果樹園やまと

### 2013年度東北ツアー 実施内容

<b>岩手県コース</b> 11月2～3日 27名参加 陸前高田市～大槌町～遠野伝承園などをめぐるコース	<b>福島県・相馬コース</b> 11月16～17日 31名参加 相馬市～果樹園やまと～二本松城址などをめぐるコース
<b>宮城県コース</b> 11月9～10日 29名参加 南三陸町～気仙沼～関上(さいかい市場)などをめぐるコース	<b>福島県・会津コース</b> 11月23～24日 25名参加 会津活・活自然村～末廣酒造～飯盛山などをめぐるコース

## 立命館大学校友会東日本大震災復興支援金・義援金について

2011年3月24日〜2013年11月30日に以下の皆様方から復興支援金・義援金をお寄せいただきました。ご協力いただきました皆様にご心よりお礼を申し上げます。

● 個人 (卒業年・50音順) ※敬称略

竹駒敏一郎 (’38・文)	中川 治男 (’56・経済)	粟津 忠義 (’62・経済)	山崎 健治 (’63・経済)	榎田 攻 (’68・法)	松尾 繁雄 (’71・経営)	山本真一郎 (’75・経済)
中森 高明 (’41・経済)	西村 彌 (’56・法)	石川 学 (’62・経済)	飛鳥井雅和 (’64・法)	鎌田 堂鳳 (’68・法)	水田 宗人 (’71・産社)	大須賀 智 (’76・産社)
藤澤 福男 (’42・経済)	森脇 靖之 (’56・経済)	岩室 健三 (’62・理工)	島田 健 (’64・法)	鈴木 忠好 (’68・文)	峯 大二郎 (’71・産社)	斎藤 武晴 (’76・産社)
藤園 堅正 (’44・文)	荒木 精治 (’57・経済)	市川 寛 (’62・法)	竹中 彰 (’64・理工)	寺田 正治 (’68・経営)	村上 博昭 (’71・経済)	杉浦喜代一 (’76・経済)
其阿彌 覺 (’47・工学)	大江 卓 (’57・経済)	伊東 宏 (’62・経済)	伊達 進夫 (’64・理工)	永野 芳弘 (’68・経済)	山田規代典 (’71・経営)	田中 康雄 (’76・法)
瀬尾 克巳 (’47・法)	吉良 禎人 (’57・経済)	上杉 貞夫 (’62・経済)	比嘉 由孝 (’64・法)	奈良 勉 (’68・経済)	足立まこと (’72・経済)	中市 吉信 (’76・経済)
津田 義 (’47・法)	庄司 祐也 (’57・理工)	上野 芳郎 (’62・経済)	廣野 憑 (’64・理工)	野口 政憲 (’68・法)	石原 資郎 (’72・法)	中村 徹 (’76・理工)
川上義太郎 (’48・理学)	杉原半四郎 (’57・経済)	大岩 守 (’62・理工)	松岡征一郎 (’64・法)	福村 昭裕 (’68・法)	糸田川廣志 (’72・理工)	林 辰雄 (’76・法)
酒井 信雄 (’48・旧法)	詫間 義晴 (’57・経済)	大久保隆史 (’62・法)	井形 和義 (’65・理工)	松久 昭 (’68・理工)	上田 泰正 (’72・理工)	原田 康昭 (’76・経営)
土岐 卓三 (’48・工学)	田村 幸治 (’57・法)	大滝 泰紀 (’62・法)	池川 健 (’65・文)	渡辺 正彦 (’68・理工)	門田 隆 (’72・産社)	藤本 進 (’76・経済)
安井 謙輔 (’48・工学)	吉田 幸彦 (’57・法)	大西 信二 (’62・経営)	岡井 満 (’65・経営)	伊藤 融 (’69・理工)	金子 康一 (’72・文)	三林 智 (’76・理工)
武田 實雄 (’49・旧法)	定立 房夫 (’58・文)	大堀 昭治 (’62・理工)	菊池 宏 (’65・文)	大倉 英譽 (’69・経営)	小西 正利 (’72・理工)	森岡 隆範 (’76・法)
松本 賢二 (’49・専法)	尾上 誠一 (’58・経済)	奥野 年秀 (’62・理工)	新谷 恭子 (’65・文)	小野 良夫 (’69・産社)	小早川博宣 (’72・経済)	足立 尚之 (’77・経済)
村田 和夫 (’49・専理)	川畑 昇 (’58・経済)	笠松 忠夫 (’62・理工)	高橋 勝人 (’65・院経)	笠原 朋雄 (’69・産社)	三宮 貞恵 (’72・経営)	今河 善信 (’77・理工)
百田 文二 (’49・専文)	古村 隆一 (’58・文)	木内 多郎 (’62・法)	東條 哲博 (’65・理工)	粕井 憲 (’69・経済)	塩野谷洋一 (’72・院理工)	角山 圭子 (’77・文)
渡邊 建治 (’49・旧経済)	柴原 公夫 (’58・文)	久保 宏 (’62・法)	中川 茂雄 (’65・経営)	北里 登 (’69・理工)	田村 哲朗 (’72・経営)	上登野英貞 (’77・文)
生澤 政昭 (’50・経済)	関 稔 (’58・法)	駒井 隆夫 (’62・経済)	山中 治雄 (’65・経営)	桑原 勇健 (’69・理工)	徳山 博 (’72・理工)	神田まどか (’77・文)
衣川 和宏 (’50・旧法)	中野 利昭 (’58・経済)	堺本 昌行 (’62・文)	藤嶋 聡 (’65・法)	高田 政治 (’69・経済)	中嶋 豪 (’72・文)	堤 芳昭 (’77・経済)
高橋宗治郎 (’50・経済)	福島 昭 (’58・法)	坂根 勝 (’62・理工)	山中 諄 (’65・経済)	棚田 正哉 (’69・理工)	福元 典典 (’72・経済)	中原 淑子 (’77・文)
中原 理雄 (’50・法)	森山 学 (’58・文)	崎野 康雄 (’62・経済)	糸洲 昇 (’66・文)	西元 泰光 (’69・産社)	藤田 佳昭 (’72・経営)	南木 孝義 (’77・産社)
原 嶺 (’50・旧法)	大曲 孝幸 (’59・法)	高城 孝臣 (’62・法)	上田 隆 (’66・法)	福井 正秋 (’69・経営)	水嶋 申夫 (’72・経営)	宮木 正典 (’77・産社)
堀出 尚吉 (’50・専工)	澤田 謙三 (’59・法)	田中 實 (’62・法)	久保 之俊 (’66・経済)	三浦 光夫 (’69・理工)	室谷 弘美 (’72・法)	石坂 伸二 (’78・経営)
大庫 典雄 (’51・経済)	竹端 一雄 (’59・理工)	谷川 照 (’62・法)	柴田 泰三 (’66・経済)	森 武幸 (’69・経営)	石川 博 (’73・理工)	石田 二郎 (’78・法)
奥村 一 (’51・経済)	中川健次郎 (’59・理工)	谷川 清治 (’62・法)	清水 恒雄 (’66・法)	森川 清 (’69・理工)	岩本 進 (’73・産社)	市川 強志 (’78・法)
壁下 誠 (’51・経済)	中嶋 嘉久 (’59・文)	辻 寛 (’62・法)	谷田 浩人 (’66・文)	山縣 正勝 (’69・産社)	尾崎 俊彦 (’73・産社)	岩井由美子 (’78・経営)
村井 一雄 (’51・法)	橋本 崇弘 (’59・理工)	辻 勝次 (’62・経済)	竹口 和之 (’66・経営)	阿多 修 (’70・理工)	小林 駿介 (’73・経済)	小川 康一 (’78・経済)
横井 和則 (’51・法)	馬場 三郎 (’59・理工)	東條 清 (’62・法)	橋本 弘之 (’66・経済)	伊藤 孝司 (’70・経営)	定藤 一夫 (’73・法)	小川 竹二 (’78・経済)
上村 重夫 (’52・法)	堀口 幸男 (’59・法)	中南 雅行 (’62・経済)	古矢 晟 (’66・経済)	小畠 護信 (’70・理工)	品谷 義雄 (’73・法)	小沢 俊幸 (’78・経済)
岸 要 (’52・理工)	丸尾 智彦 (’59・経済)	二沢 宏生 (’62・文)	村本 晃一 (’66・経営)	片野 幸雄 (’70・法)	関 正知 (’73・産社)	竹村 公一 (’78・経営)
澤田 昭二 (’52・経済)	三角 勝敏 (’59・経済)	西 忠行 (’62・理工)	吉岡 宣男 (’66・経済)	倉尾 泰則 (’70・経営)	高池 國幸 (’73・経済)	堂ヶ崎裕美 (’78・文)
中西 昭雄 (’52・法)	吉田 軍治 (’59・文)	西浦 秀和 (’62・経済)	伊藤 功 (’67・経済)	小原 輝三 (’70・文)	田中 智誠 (’73・経営)	永野 正規 (’78・理工)
宇野 光雄 (’53・短商)	大島 澄人 (’60・経済)	西森 徳良 (’62・法)	伊藤 正直 (’67・法)	佐竹 力総 (’70・法)	田中 裕二 (’73・法)	初村 雅敬 (’78・経済)
加藤 忠 (’53・文)	三枝 等 (’60・文)	秦 英夫 (’62・法)	片岡 義順 (’67・法)	城ヶ端初子 (’70・法)	宮野 正喜 (’73・理工)	比嘉 武宏 (’78・法)
鷹野 晴朗 (’53・経済)	高見 正芳 (’60・理工)	服部 紀夫 (’62・法)	金山 忠夫 (’67・法)	瀨尾 和宏 (’70・理工)	八木 博 (’73・経営)	福井 啓一 (’78・経済)
三木 佳次 (’53・経済)	長川 哲也 (’60・経済)	林 國松 (’62・経済)	川名晋次郎 (’67・文)	館 善啓 (’70・産社)	山本 啓幸 (’73・理工)	南側 晃一 (’78・理工)
山田 茂 (’53・法)	中山 行雄 (’60・理工)	平野 良明 (’62・経済)	多田隈 章 (’67・理工)	中本 靖夫 (’70・経営)	楠美 常夫 (’74・文)	山本 啓幸 (’73・理工)
米田 信夫 (’53・文)	西村 義行 (’60・経済)	福田 征三 (’62・経済)	陳 萬建 (’67・経済)	西沢 喜一 (’70・法)	古賀 宏 (’74・産社)	楠美 常夫 (’74・文)
和田 忠儀 (’53・経済)	野瀬 正己 (’60・法)	藤原 琢磨 (’62・経済)	辻 信雄 (’67・理工)	橋本 重明 (’70・法)	小谷 雅信 (’74・法)	小松 美穂 (’80・文)
村上 善隆 (’54・経済)	林 鉄夫 (’60・理工)	堀井 信一 (’62・経済)	辻井 正一 (’67・経済)	長谷川貞栄 (’70・文)	小畑 実 (’74・理工)	藤 厚久 (’79・経営)
大久保清和 (’54・経済)	宗岡 洋吉 (’60・経済)	前田 増夫 (’62・理工)	古川 友明 (’70・理工)	武内 俊夫 (’74・経済)	佐々木竹義 (’74・経済)	南家 久光 (’79・法)
岸本 孝 (’54・経済)	森上 浩三 (’60・経済)	真木伊八郎 (’62・経済)	西木 光夫 (’67・法)	松下 孝雄 (’70・文)	島田 斉 (’79・産社)	新名内佳代子 (’79・経済)
北村 利男 (’54・経済)	山城 道康 (’60・理工)	馬島 稔治 (’62・理工)	久岡紀代子 (’67・文)	向井 彰 (’70・産社)	田中 栄治 (’74・経営)	山崎 盛正 (’79・法)
楠戸 康平 (’54・経済)	横路 忠 (’60・理工)	松井珍男子 (’62・法)	堀本 典洋 (’67・法)	村上 健治 (’70・産社)	平井 紀子 (’74・法)	雨嶋 清和 (’80・産社)
田中 元和 (’54・経済)	網尾 汎勝 (’61・経済)	松永 英久 (’62・法)	前谷美代子 (’67・文)	百瀬 敏彦 (’70・理工)	宗田喜久雄 (’74・産社)	越後 力 (’80・法)
西川 幸三 (’54・経済)	大森 祐輔 (’61・文)	宮 守国 (’62・法)	松村 勝弘 (’67・経営)	足立美智子 (’71・文)	目崎礼二郎 (’74・経済)	越前 幸治 (’80・産社)
安岡 五郎 (’54・法)	奥田 積 (’61・文)	森田 融彦 (’62・法)	松村 正 (’67・法)	石川 博一 (’71・経営)	山本由布子 (’74・文)	岡村 伸一 (’80・経済)
山口 賢 (’54・経済)	柳生 和義 (’61・経済)	森田 融彦 (’62・法)	望月 一義 (’67・文)	石川 恭一 (’71・経済)	北村 幸司 (’75・理工)	梶田 信夫 (’80・院・文)
山田 一夫 (’54・法)	河野 孝重 (’61・理工)	山本 康雄 (’62・経済)	山本 重尚 (’67・経営)	貝元 利江 (’71・文)	北山 信夫 (’75・産社)	鹿嶋 道成 (’80・文)
吉川 勉 (’54・法)	近藤 俊介 (’61・経済)	由利 旭 (’62・経済)	森山 泰宏 (’67・法)	北川 孝規 (’71・法)	木村 保和 (’75・経済)	栗林 千冬 (’80・理工)
池田 正和 (’55・理工)	酒井 基雄 (’61・法)	吉村 康賢 (’62・文)	八束 庸子 (’67・文)	木野 明 (’71・法)	斎藤佳代子 (’75・産社)	黒田美智子 (’80・産社)
菊 保男 (’55・理工)	清家 邦敏 (’61・経済)	稲田 義孝 (’63・経済)	矢富 俊春 (’67・経済)	郷原 衛 (’71・経営)	嵯峨 法夫 (’75・法)	小松 美穂 (’80・文)
田中 宗一 (’55・経済)	武智 聖壽 (’61・理工)	中西 政儀 (’63・理工)	山崎すみ江 (’67・文)	佐野 吉廣 (’71・理工)	桜木 秀 (’75・文)	寺本 元 (’80・経営)
梅田 四郎 (’56・法)	阿部 正江 (’62・文)	林 幹雄 (’63・文)	山本洋一郎 (’67・法)	谷本 和之 (’71・文)	底田 盛敏 (’75・経済)	廣瀬佐和子 (’80・文)
片山 博賢 (’56・法)	荒川 清 (’62・法)	宮田 俊夫 (’63・文)	吉川 博輔 (’67・文)	拝師 暢彦 (’71・理工)	田中 一正 (’75・理工)	吉村 治郎 (’80・産社)
金沢 作衛 (’56・法)	荒木 正弘 (’62・経済)	三輪 金久 (’63・経済)	吉村真佐男 (’67・文)	森 治郎 (’80・産社)	中川 武司 (’75・経営)	森口 利光 (’80・経済)
藤田 守弘 (’56・法)	有賀 鐵夫 (’62・法)	森川 和子 (’63・文)	岩村 寿夫 (’68・経済)	前田 茂隆 (’71・理工)	宮村 光治 (’75・法)	

伊藤 善隆 (’81・法)	中村 利郎 (’85・経営)	山本 治三 (’88・経営)	櫻井 智之 (’94・法)	林 夏音 (’99・国際)	福島 悠子 (’04・文)	横山 夕佳 (’09・文)
加藤 剛 (’81・文)	野村 正人 (’85・産社)	北戸 正明 (’89・理工)	本多 泰幸 (’94・文)	山本 和代 (’99・理工)	藤澤 尚人 (’04・産社)	米津 翔平 (’09・政策)
倉田 隆久 (’81・経済)	松井 茂樹 (’85・法)	山川 一彦 (’89・理工)	伊藤 隆司 (’95・経済)	横澤 伸 (’99・院理工)	舟倉 善 (’04・経営)	岡崎世里子 (’10・経済)
飯口 吉美 (’81・文)	道野 茂宏 (’85・理工)	岡原 茂樹 (’90・経済)	川崎 直人 (’95・法)	横田圭一郎 (’99・経営)	市川 祐子 (’04・産社)	照井 路子 (’10・文)
本山 修二 (’81・産社)	今井 修 (’86・経営)	門野 富男 (’90・法)	清水 隆吾 (’95・産社)	江原 一 (’00・文)	大居 四良 (’05・経営)	東本 滝子 (’10・法)
吉村 勝行 (’81・法)	岩岡 博 (’86・法)	金井 幹雄 (’90・文)	丹羽亮太郎 (’95・経済)	黒田 明代 (’00・産社)	岡本 盛聖 (’05・経営)	古江奈菜美 (’10・理工)
市川 佳夫 (’82・経営)	北須賀健司 (’86・文)	久保園美香 (’90・文)	野田 勝嗣 (’95・経済)	金銅 幸夫 (’00・産社)	小野久美子 (’05・経営)	渡邊真悠子 (’10・文)
須古星文男 (’82・経済)	小嶋 清 (’86・理工)	葉山 祐造 (’90・経営)	平野 哲博 (’95・経済)	高橋 典子 (’00・文)	木下 珠里 (’05・経済)	笠松 祐介 (’11・法)
高松 真理 (’82・産社)	坂 裕二 (’86・文)	山本 真司 (’90・産社)	堀内裕佳子 (’95・文)	津々見茂彦 (’00・経済)	杉谷 知彦 (’05・院法)	金子 未里 (’11・経済)
西川 京子 (’82・文)	佐藤 幸市 (’86・経営)	山本 穰 (’90・産社)	松山 和生 (’96・経済)	豊田 武範 (’00・経済)	高畑 真美 (’05・経営)	神田友保 (’11・文)
本田 康仁 (’82・法)	田中 幸治 (’86・文)	奥村 陽敏 (’91・理工)	藪田 友子 (’95・法)	加島 隆弘 (’01・文)	原田 純真 (’05・理工)	木村 元 (’11・経済)
貫浦 久剛 (’82・産社)	辻本 浩幸 (’86・経済)	多賀 章善 (’91・経営)	山中 正史 (’95・法)	玉園 和法 (’01・文)	山口あやの (’05・法)	河合 伸典 (’12・経済)
森村 修一 (’82・経営)	仲宗根伸成 (’86・経営)	高津 知仁 (’91・法)	横井ゆう子 (’95・産社)	程野 高行 (’01・経営)	石川眞理子 (’06・院応用)	北田 綾子 (’12・法)
池田 互隆 (’83・理工)	藤井 智久 (’86・法)	中村 牧 (’91・文)	押山 智子 (’96・文)	水野 輝彦 (’01・経済)	石野 貴史 (’06・院社会)	小西 謙斗 (’12・産社)
岡 剛史 (’83・産社)	船橋 久一 (’86・産社)	新山 仁 (’91・法)	寺林 千幸 (’96・文)	荒駒 泰誠 (’02・法)	花村 学 (’06・経済)	佐野 和広 (’12・情報)
尾崎 一裕 (’83・理工)	宮所 典世 (’86・文)	長谷川敬司 (’91・産社)	豊田 兼彦 (’96・法)	井上秀次朗 (’02・経済)	日座 信志 (’06・産社)	清水 智賢 (’12・文)
杉田 成 潮 (’83・産社)	山添 祥統 (’86・経済)	町田 孝子 (’91・文)	船越 雅弘 (’96・理工)	川野 早苗 (’02・法)	藤川 由梨 (’06・理工)	園部 浩大 (’12・経営)
田中 嘉基 (’83・産社)	渡邊 恭孝 (’86・文)	渡邊 健彦 (’91・法)	松尾 勇 (’96・経営)	間橋 博行 (’02・経営)	山口 統也 (’06・経済)	高橋 祥子 (’12・産社)
中川 正彦 (’83・法)	浅野 和也 (’87・経営)	植野裕美子 (’92・産社)	三輪 直樹 (’96・産社)	久保 健 (’02・法)	石川 徹 (’07・理工)	田口 弘樹 (’12・国際)
中道 忠昭 (’83・理工)	池田 浩規 (’87・産社)	植平 雅司 (’92・法)	孝月 敦 (’97・経済)	金銅 幸夫 (’02・院社会)	江口 尚志 (’07・産社)	中橋 一智 (’12・文)
坂東 亮二 (’83・理工)	伊佐由美子 (’87・文)	北住 富雄 (’92・経営)	河野 将佳 (’97・理工)	近藤 礼子 (’02・国際)	鈴木 亮策 (’07・院社会)	若林 亮 (’12・経営)
藤森 昭彦 (’83・文)	上野 正巳 (’87・産社)	蔵野 澄子 (’92・文)	佐織 素代 (’97・文)	庄山由多加 (’02・経営)	松永嘉洋大 (’07・理工)	増本 敬 (’12・経済)
松本 浩明 (’83・経済)	川合 孝典 (’87・法)	鈴木 孝尚 (’92・経済)	島崎 一剛 (’97・理工)	鈴木 洋勝 (’02・経済)	新井希代子 (’08・産社)	松岡 伸子 (’12・文)
吉本 聡 (’83・理工)	川合友美子 (’87・理工)	武井 典子 (’92・法)	鈴木 秀顕 (’97・経済)	高木 芳暢 (’02・院経済)	大賀 博文 (’08・経営)	三原 祐大 (’12・理工)
市田 康弘 (’84・経営)	栗岩 均 (’87・文)	戸田由美子 (’92・文)	藤川 雅隆 (’97・院理工)	所 千人 (’02・経営)	葛村 一真 (’08・産社)	上野 高生 (’13・文)
川端 雅彦 (’84・経済)	齋藤 哲朗 (’87・産社)	原崎 裕三 (’92・経営)	近藤 光平 (’98・理工)	横井 敦 (’02・経済)	葛井 利美 (’08・文)	瀧田 龍 (’13・政策)
合田 大樹 (’84・経済)	佐藤 光 (’87・文)	森脇 宏之 (’92・経営)	近藤 真美 (’98・産社)	黒羽さゆり (’03・文)	田中恵美子 (’08・院社会)	渡 博文 (’54・法入学)
肥塚 浩 (’84・経済)	島内 卓 (’87・文)	山本 悟史 (’92・法)	仙土 文彦 (’98・産社)	古賀真名美 (’03・文)	原田 康成 (’08・経営)	高橋 正樹 (’72・経営入学)
近藤 芳也 (’84・産社)	原田 純治 (’87・産社)	横部 俊利 (’92・法)	田中 伸宜 (’98・経営)	白川 泰寛 (’03・文)	東島 新 (’08・経済)	桂 塩鯛氏 (’74・経営入学)
杉山 茂彦 (’84・産社)	藤本 英高 (’87・文)	小野寺義彦 (’93・文)	蝶野いずみ (’98・法)	富田 健一 (’03・法)	富脇 恒太 (’08・文)	泉 知論 (教職員校友)
中村 佳代 (’84・文)	宮川 和彦 (’87・文)	熊田 誠 (’93・文)	都築 絵美 (’98・産社)	二田 龍哉 (’03・院政策)	本山 弘幸 (’08・文)	川崎 清 (教職員校友)
西敷 圭太 (’84・経営)	久間 康弘 (’88・産社)	坂元 秀樹 (’93・法)	鶴窪 仁志 (’98・産社)	神田 実人 (’03・経済)	鷺見久美子 (’08・経済)	田中 照純 (教職員校友)
山内 茂靖 (’84・法)	栗田 聡 (’88・経済)	才木 郁夫 (’93・経済)	中島 裕子 (’98・経営)	藤田 昌秀 (’03・経営)	石原 幸佑 (’09・経済)	本郷純則 (教職員校友)
吉新 聖二 (’84・理工)	鈴木 健 (’88・院理)	佐々木慎二 (’93・経済)	若林多恵子 (’98・産社)	水野 崇 (’03・文)	植田 雄紀 (’09・経済)	松岡 正美 (教職員校友)
吉原 史晃 (’84・文)	高木 清志 (’88・産社)	西田 啓介 (’93・法)	石井 秀一 (’99・経済)	岡本 一樹 (’04・院社会)	高橋 冬樹 (’09・文)	
桂 祐子 (’85・経済)	俵屋 昭 (’88・法)	堀 知美 (’93・経済)	小野田真由美 (’99・政策)	佐々 敦 (’04・法)	千種 徹也 (’09・経済)	
土屋 彦彦 (’85・理工)	西田 雄二 (’88・法)	宮内 圭祐 (’93・産社)	木野龍太郎 (’99・院経営)	西木 大祐 (’04・院法)	津田 恭明 (’09・文)	
中島 克幸 (’85・法)	平林 邦康 (’88・理工)	矢口 清志 (’93・法)	五味 秀剛 (’99・産社)	武内 淳花 (’04・文)	村上 貴康 (’09・経営)	
	三田 周作 (’88・産社)	今中 智幸 (’94・法)	田邊 裕 (’99・経営)	西澤 良子 (’04・文)	山口 航 (’09・経済)	

※卒業年・学部・研究科名は、校友会に登録されている情報に基づき記載しています。なお複数の学部・研究科を卒業・修了されている場合は、最終歴を記載しています。

● 個人 (会合等参加者)

2011年度幹事会出席者 (179名)
2011年度関西エリア新校友歓迎会参加者 (145名)
2011年度関東エリア新校友歓迎会参加者 (175名)
2011年度東海エリア新校友歓迎会参加者 (145名)
「オール立命館校友大会2011in京都」参加者 (1343名)
「オール立命館校友大会2011in京都」広告協賛協力者 (34名)
卒業50周年記念祝賀会参加者 (13名)
2012年度幹事会出席者 (31名)
2012年度東海エリア新校友歓迎会参加者 (153名)
2012年度東海エリア新校友歓迎会参加者 (126名)
「オール立命館校友大会2012in新潟」参加者 (1150名)

合計 15,166,068円 2013年11月30日現在

（ 個人 4,395名 10,769,289円 ）  
（ 団体・グループ 177件 4,396,779円 ）

● 団体・グループ・企業 (50音順)

愛知県校友会	岐阜県校友会	全国行政書士立命会	株式会社バチ・ホリック京都
秋田県校友会	機友会兵庫支部	体育会硬式庭球部OB会	浜松校友会
尼崎市役所比叡会	京都校友会	体育会射撃部OB会	兵庫県校友会
石川県校友会	経営学部社会人学生同窓会	高槻島本校友会	兵庫県校友会西宮支部
市川会	軽音楽部OB会	千葉県校友会	広島県校友会
宇部小野田校友会	高知県校友会	敦賀立命会	広島県東部校友会
ウリ同窓会	建立会 (建設会香川県支部)	東京校友会	福井県校友会
愛媛県校友会	建立会 (建設会大阪支部)	栃木県校友会	福岡県校友会
遠藤見ゼミOB会	しろ会	鳥取県東部校友会	法学部同



10月26日(土)、JR京都駅直結「ホテルグランヴィア京都」および京都駅ビルで「オール立命館校友大会 2013 in 京都」が開催された。立命館大学校友会本部総務委員会のもとに実行委員会が組織され、全国各地から関係者を含め総勢約1600名が参加した。



## 総会・懇親パーティー

総会・懇親パーティーには約1200名が参加。冒頭のオープニングアクトでは、華道家元池坊次期家元の池坊由紀さん('12院文)がいけばなを実演披露し、佐野哲夫実行委員長('82経済)の開会宣言で華々しく幕を開けた。総会司会は、2年前の京都での大会を盛り上げたKBS京都総務部長の宮本英樹さん('84産社)と、NHK京都放送局キャスターの小野田真由美さん('99政策)が務め、参加者全員で黙祷の後、学園歌を斉唱。村上健治校友会会長('70産社)からは「新たに会長に就任し、校友会の活性化に向けて微力ながら全力投球していきたい。校友会は2019年に創設100周年を迎えるが、これもひとえに先輩方の努力のおかげ。立命館が、遠くない将来、日本のトップそして世界からも注目されるような大学となるように校友会も支援していきたい」と挨拶があり、川口清史立命館総長による来賓祝辞の後、総会議事に移り、2議案が報告された。続いて、6月に退任した山中諄前会長('65経済)に感謝状と花束が贈呈され、山中前会長からは「皆様に支えられて9年間の会長の職を全うすることができた。今後ますます校友会が発展するように、これからも村上新体制を支えてくださるようお願い申し上げます」と感謝の言葉が述べられた。



川口総長



村上会長



飛鳥井副会長



オープニングを飾った池坊由紀さん



山中前会長に感謝



佐野実行委員長



総会司会の宮本さん



総会司会の小野田さん



RUSH

## 立★コン

今大会では、大会史上初めての若手校友限定の交流会「立★コン」を開催。2001年以降に卒業した校友約180名が、人狼ゲームやディナーパーティーを楽しんだ。同世代ならではの親近感で意気投合した参加者たちの間には、新しいつながりが生まれていた。



## 後輩たちによるステージイベント

京都駅ビル「室町小路広場」と「駅前広場」の2会場に設けられた特設ステージでは、京都開催の大会では恒例の後輩たちによるステージイベントが行なわれた。駅前広場ステージでは、昨年の世界大会で優勝したダブルダッチサークル「dig up treasure」や、マジックサークル「FLIPPERS」、また室町小路広場ステージでは、パントワリング部や書道部などが出演し、全17団体の若さあふれるバラエティーに富んだステージに、校友だけでなく通りすがりの一般見学者も惹きつけられていた。



## アフタヌーンティーパーティー

校友大会の人気企画。約150名の女性校友が、今年度のテーマ「音楽とホテルスイーツを楽しむ」の通り、OLD RUSHの素敵な演奏と宝石のようなホテルスイーツの数々を楽しみ、気の置けない雰囲気の中交流を深めた。



OLD RUSH



# 女性校友たちの情報交換会が開かれました



2013年10月26日(土)、「オール立命館校友大会2013in京都」の開催に併せて、『女性による校友活動の拡がりと活性化のための情報交換会』が開かれました。東京、新潟、東海、関西、九州地域から五つの女性グループメンバーと、総務、広報の女性委員、佐藤友美子校友会副会長(75文)の総勢20名が参加しました。

近年、自発的・積極的に校友会活動に関わろうとする女性校友が全国で増加しています。同企画は、そうした女性校友たちが課題の共有や情報の交換を行なう場を設け、活動のさらなる活性化につなげようと、総務委員で東海地区女性校友の会代表・大倉昌子さん(01法)らが中心となって、各地域で特に活発な活動を展開している女性グループに呼びかけ、実施されました。

当日は、各グループの自己紹介のあと、サイコロを振って出た目のテーマで話をする「サイコロトーク」に移り、参加者一人ひとりが話題を提供し意見交換。「一番思い出に残っている活動」「グループのここが自慢」や、「ここだけの話」などのテーマで展開されました。

「女性同士だからできることがあると思ってこのような活動をしているが、そうではない意見に出会うと時々迷ってしまう」など、活動に関わる疑問や悩みに対し、「出産や育児など、女性ならではの話ができる女子会にはちゃんと意味があるのでは」と、励ましやアドバイスがあり、それぞれ不安や期待を率直に話し合っ課題解決や活動発展の糸口を探りました。

オブザーバーとして参加した佐藤副会長は「女性の会というものがある校友会活動におけるブレイクスルーのきっかけになるのではと感じます。ここで出たような意見を校友会にも提案していければ」と今後に期待を寄せ、参加者は「これを最初の一步にしたい」と、ネットワークを維持・発展させることを誓いました。



## 参加グループのご紹介



### 東京校友会・連続講演会「女性エグゼクティブの旬な話」(通称「女性セミナー」)

「女性による、女性のためのセミナー」「ちょっと、知的で、おしゃれで、品よく」というコンセプトで立ち上げましたが、今は進化させて「質の高い一流の講師を呼ぶ」「老若男女、校友内外へオープンな会」にしています。ほぼ毎回参加されているリピーターもあり、講師と参加者の誰もが気軽に話せるアットホームな会です。

**活動予定** 12月初旬にはノンフィクション作家の杉野未矢さんの講演会を実施しました。引き続き年2、3回のペースで、「本当に来たいと思ってくださる方に来ていただける会」にしていきます!

**問い合わせ先** tokyo-al@st.ritsumei.ac.jp 東京校友会事務局 幹事長・竹内美奈子



### 新潟県校友会女性部

2004年11月に発足。最初は2人しかいなかった会が、今では20人も集まるようになりました。校友会は男性主体で参加しにくいと思っている皆さん、女性部は校友の奥様・ご家族も参加大歓迎です。家庭のこと、仕事のこと、女性ならではの悩みも話せる雰囲気でお和気あいあいとやっています。

**活動予定** 定例会を年1回開催。来年はお花見を兼ねて4月に開催予定。この会は男性のご参加も受け付けています。

**問い合わせ先** Facebook <https://ja-jp.facebook.com/rits.niigata> (新潟県校友会)



### 東海地区女性校友の会(通称「大人女子部」)

大人女子部では、これまでに美容系セミナー、運動、語学教室等多様なイベントを実施してきました。毎回の活動は約10名以内でアットホーム(ほぼ毎回初参加者あり)。結婚・出産・介護といったライフステージにあっても「立命館の校友」という繋がりや途切れません。緩やかに長く、気分転換や息抜きの場を目標としています。

**活動予定** 2014年1月18日(土)、第11回大人女子部活動「ランチ・ミーティング」を開催予定。場所(名古屋周辺)、参加費等調整につき、追ってブログへ情報掲載・参加者の方へご連絡予定です。(大人女子部ブログ<http://rits-women.jugem.jp/>)

**問い合わせ先** info@rits-aichi.net 愛知県校友会(件名に「大人女子部問い合わせ」とご記入ください)



### 関西さくら会

関西を中心とした女性校友を繋ぐネットワーク「関西さくら会」は、本年春に設立されました。色々な働き方や生き方を学びあって、女性ならではの助けあいと活動をします。就職、結婚、出産、育児など、女性が向き合う様々なライフイベント。男性校友にも応援いただき、アイデアを出し合っ、楽しくリフレッシュしませんか?

**活動予定** 被災地訪問などのボランティアや、女性のためのさくらセミナーなど

**問い合わせ先** mcommuse@aol.com 中田真理子  
Facebook <https://www.facebook.com/kannsaisakurakai>



### 九州女子会

発足は「オール立命館校友大会2010in福岡」がきっかけでした。実際の活動は地理的条件等もあり、今年1月から本格的に動き出した新しい会です。お茶会や日本文化の講演、また男性を交えてのパーベキューなどを通して九州各県の校友の親睦をはかっています。

**活動予定** 2014年1月19日(日)、北九州選抜女子駅伝・立命館宇治高校応援(前日は社行会兼新年会)。この会は男性校友のご参加も受け付けています。

**問い合わせ先** r.kitaq@yahoo.co.jp 北九州校友会事務局 幹事長・中西あき(九州女子会の件)とお書き添えください

そのほか、以下のようなグループも活発に活動しています!

### A・R・Rサークル

宮崎房子前徳島県校友会会長が立ち上げた女性の会です。メイクの先生、フラの先生、大学病院の医師、校友でもある町長などなど、多彩な方と有意義な時間を過ごしています。メンバーは、公務員、教師、銀行員、アナウンサー、主婦とさまざま。とにかく阿波おんなは働くことも遊ぶことも大好きなのです!!

**活動予定** ヨガに挑戦する会を開催予定中 **問い合わせ先** 088-656-1023 徳島県校友会事務局内 箕浦啓子

## オブザーバーの声

きっかけは些細なことでもいい。女性校友であれば、いいのだから。

恒例となったアフタヌーンパーティでケーキバイキングを腹13分目まで堪能したあと、校友大会実行委員の中心メンバーである大倉女史の積極的な呼びかけで召集された(笑)全国でも今、活発な活動をしている女性校友のサークルや会のメンバーたちによる情報交換会に同席した。今後の在り方を問う会でもあったようだ。全国30万人以上の校友のうち、何割を女性校友が占めるのだろうか?結婚・育児・介護…果たすべき家族の役割、まだまだ現役の女性たちにとって、校友大会でさえ今回初参加という声を会場で多数耳にした。学部や都道府県単位の校友会でも優先課題にのぼる女性校友の取り込み。ビジネスでもなくボランティ

アでもない、ただ、校友だからという繋がりやなんと軽やかなことか。グループごとの意見交換、提言でも、地域性こそあれ、そのグループを牽引している後輩女性たちの肩の力の抜き方や、知恵の出し方は、まぎれもなく世代交代、今どきの女たちの姿だ。そして、同時に予算をとるべくして行なうイベントや、運営側の貢献度をどのように評価するかなど、明確にしてゆくべき課題も浮き彫りになったように思う。自発的に活動している女性校友たちのネットワークがより強固に、また校友会の中での位置付けをこれからどのように確保してゆくか、知恵比べがはじまった。



広報委員  
高橋英子

# 校友会未来人財育成基金 ~校友による新たな「後輩・母校支援」の形~



立命館大学校友会は、母校に学ぶ後輩を支える恒常的で息の長い支援の具体化として「校友会未来人財育成基金(以下、基金)」の創設を大学に申し入れ、感謝の意をもって承されました。基金への支援は立命館大学への寄付となります。

校友会は立命館大学とともに基金の募集推進を2012年10月から行っており、2013年11月30日時点で847名1538件25,179,108円のご支援をいただいています。皆様のご協力に感謝申し上げます。

校友一人ひとりが主人公となり、「立命館の未来を創る」活動に、あなたもぜひご参加ください!

## 未来人財ニュース!

### WEB芳名録が開設されました

立命館学園に対してご寄付されている皆様のお名前を掲載した「WEB芳名録」が立命館大学ホームページに開設されました。基金にご支援いただいている皆様のお名前もこちらに掲載されています(匿名希望の方は除きます)。立命館大学ホームページまたは基金ホームページからぜひアクセスしてご覧ください。

立命館 芳名録 検索



### 口座振替によるご寄付が可能となりました

継続的なご支援の方法として、これまでのクレジットカードに加え「口座振替」の取扱いが新たに開始されました。銀行・ゆうちょ銀行・信用金庫・信用組合・農協・漁協など各金融機関の預金(貯金)口座から、毎月自動引落にて基金にご支援していただくことができます。専用の申込書をご用意していますので、校友会事務局までお問い合わせください。

### 特製「立命館バッジ」プレゼントキャンペーン

基金にご協力いただいている方で、以下の条件を満たす方には特製の「立命館バッジ」が立命館大学からプレゼントされます。

**【条件】2016年3月31日までに基金への累計寄付額が2万円以上となる方**  
 例えば毎月1,000円のご支援の場合、2014年8月までに第1回目のご寄付を開始(入金)いただいた方が対象となります。(詳細は基金ホームページをご覧ください)

## 募集要項

### 1. 寄付の金額

- (1) 個人の場合/ひと口1,000円からご支援いただけます。(継続的な寄付[毎月・毎年・年2回]をぜひお願いします)
- (2) 法人の場合/ひと口の金額は特に定めておりません。

### 2. 募集期間

期間に定めはありません。

### 3. 寄付の目標額(第1次活用プラン)

10億円(2012年10月1日~2020年3月31日)

### 4. 申込方法

#### ① WEBで申込む

立命館大学校友会のホームページよりお申込みください。簡単な手続きで完了いたします。クレジットカードをはじめ銀行振込・コンビニ決済など多様な方法にてご寄付いただけます。

<http://gift2r.info>



←携帯電話からのアクセスはこちら!

※一部機種によってはご覧いただけない場合がございます。



#### ② 書面で申込む

校友会事務局に資料をご請求ください。銀行振込・口座振替にてご寄付いただけます。

### 5. 第1次活用プラン(2012年~2020年)

「学生×校友×京都」グローバル人材育成交流拠点の設置  
 ~過去・現在・未来を結ぶ空間、校友の経験値を後輩に繋ぐ出発点~

### 6. 税制上の優遇措置について

本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

#### お問合せ先

(受付時間: 土日祝を除く 9:00 ~ 17:30)

- 校友会未来人財育成基金に関しては・・・立命館大学校友会事務局 075-813-8216
- 寄付の受入れ、税制上の優遇措置に関しては・・・立命館 総務部 寄付事務局 075-813-8110

## ニューヨーク校友会が設立10周年を迎えました!

ニューヨーク校友会が今年設立10周年を迎えたことを記念して、2013年8月23日(金)、ニューヨーク・マンハッタンの「Palm Too」において、「ニューヨーク校友会設立10周年記念総会」を盛大に開催しました。



ニューヨークで研究活動の経験を持つ長田豊臣立命館理事長をはじめ、ニューヨーク校友会の発足メンバーのひとりで初代事務局長の乾光孝さん('97文)、昨年ニューヨークのアポロシアターで開催された世界大会で優勝した、ダブルダッチサークル「Future of Gambit」の西川卓実さん(経営4回生)、下村直也さん(スポ健4回生)ら、総勢21名が参加しました。

総会では、安久和伸ニューヨーク校友会会長('73理工)から「NYから母校のためにできることに取り組んでいきたい」と挨拶があり、乾さんは「必ずまたここに戻り、日本人の心の拠り所となるよう貢献したい」と想いを述べました。歓談の後、西川さんと下村さんが今年の大会連覇への抱負を語り、橋本泰樹副会長('74法)からは「アクティブな立命館の学生に、アメリカの勢いを是非肌で感じて何かを学んで欲しい」とメッセージが送られ、設立10周年の節目に相応しい、華やかな盛り上がりのなかなは幕を閉じました。

## 高槻・島本校友会が東日本大震災の復興支援のために地域のお祭りに出店しました!

高槻・島本校友会では、東日本大震災の復興支援活動に継続して取り組んでいます。2013年8月3日(土)、4日(日)に高槻市で開催された「高槻まつり」では、復興支援を目的として校友会が出店し、被災地の校友の食品会社から仕入れた食品などを販売しました。当日は、『立命館大学校友会』の法被を着た赤松正則常任幹事を先頭に多数の会員が呼び込みをし、通りがかった人たちが次々と商品を買って求めていました。

また、10月19日(土)に開催された「第8回/平成25年度高槻・島本校友会総会」では、ここ数年行なっていた義援金の募集に続き、被災した校友が経営する店舗の商品チラシを配布

するなど、被災地のさらなる活性化を目指して新たな取り組みも行なわれました。



## 校友会・グループ インフォメーション

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
北朋会総会	1/11(土) 15:00	ホテル札幌ガーデンパレス	事務局 011(381)8888
マレーシア校友会総会	1/19(日)		細谷 祐司 ritsumy@gmail.com
建立会(建設会大阪支部)総会	1/25(土) 14:00	ヴィアーレ大阪	原田 直樹 090(8933)7108
北海道校友会総会	1/25(土) 16:30	京王プラザホテル札幌	中川 均 職011(221)6050
東京校友会総会	1/26(日) 11:00	アンフェリション	事務局 03(5224)8188
湘南クラブ新年会	2/2(日) 11:30	鎌倉芸術館内レストランパウゼ	茂山 哲也 090(3105)7121


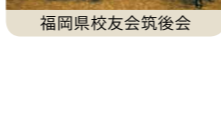





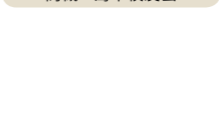

都道府県校友会／海外校友会

- 9/7 広島県校友会総会 (126名・ホテルグランヴィア広島) 
- 9/21 福島県校友会総会 (22名・いわきワシントンホテル椿山荘) 
- 9/29 茨城県校友会総会 (27名・三の丸ホテル) 
- 9/29 西安立命会 (9名・私房菜) 
- 10/5 千葉県校友会総会 (90名・山崎製パン企業年金基金会館) 
- 10/6 兵庫県校友会「兵庫県校友のつどい」 (106名・生田神社会館) 
- 10/19 長崎県校友会総会 (56名・出島ワーフ2F「ドラゴンワールド」) 
- 10/26 京都校友会総会 (196名・ホテルグランヴィア京都) 
- 11/2 宇部・小野田校友会総会 (80名・ホテル河長) 
- 11/2 北九州校友会総会 (73名・リーガロイヤルホテル小倉) 
- 11/3 山形県校友会総会 (28名・ホテルキャッスル) 
- 11/4 島根県校友会総会 (33名・サンラポーむらくも) 






- 11/8 鳥取県東部校友会総会 (58名・ホテルモナーク鳥取) 
- 11/8 山口県校友会総会 (70名・ホテル松政) 
- 11/9 東北北海道校友会総会 (30名・帯広ワシントンホテル) 
- 11/9 埼玉県校友会総会 (36名・銀座アスター川口賓館) 
- 11/9 オール立命館福岡県校友大会 (300名・西鉄グランドホテル) 
- 11/16 石川県校友会総会 (91名・金沢ニューグランドホテル) 
- 11/16 愛知県校友会総会 (320名・名鉄グランドホテル) 
- 11/16 鳥取県西部校友会総会 (30名・米子全日空ホテル) 
- 11/16 大分県校友会総会 (93名・大分センチュリーホテル) 
- 11/16 鹿児島県校友会総会 (83名・プラザN) 
- 11/17 広島県東部校友会総会 (60名・福山ニューキャッスルホテル) 
- 11/24 栃木県校友会総会 (35名・宇都宮東武ホテル・グランデ) 

地域校友会



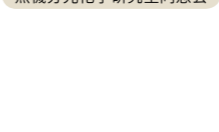

- 9/7 福岡県校友会筑後会総会 (24名・久留米ホテルエスプリ) 
- 9/7 長野県校友会上伊那地区会総会 (華久) 
- 10/12 大阪いばらき立命会総会 (121名・茨木市役所南館9階スカイレストラン) 






- 10/19 高槻・島本校友会総会 (75名・アンシェルデ・マリアーージュ) 
- 11/15 北摂校友会総会 (100名・千里阪急ホテル) 
- 11/17 校友会淡路支部総会 (21名・きた八) 
- 11/23 丹後地区校友会総会 (34名・プラザホテル「吉翠苑」) 

職域校友会

- 8/31 立命館学園会計人会総会 (40名・京都ホテルオークラ) 
- 10/5 公認会計士校友会総会 (27名・朱雀キャンパス) 
- 10/8 Rits不動産ネットワーク総会 (68名・京都ホテルオークラ) 
- 11/15 愛知県庁立命会設立総会 (55名・アイリス愛知) 
- 11/22 尼崎市役所比叡会総会 (35名・都ホテルニューアルカイク) 

学部・学科・ゼミ校友会



- 8/31 生命科学部応用化学科無機分光化学研究室同窓会 (46名・ホテルグランヴィア京都) 
- 9/7 奈良建設会総会 (45名・奈良ロイヤルホテル) 
- 9/14 公務研究科校友会 (Rippo) 総会 (49名・朱雀キャンパス) 
- 9/21 村上弘教授を囲む会 (31名・末川記念会館) 
- 10/5 文学部哲学同窓会総会 (28名・末川記念会館) 

- 10/6 文学部英米文学同窓会総会 (31名・レストラン菊水) 
- 10/12 建設会京都支部総会 (60名・京都タワーホテル) 
- 10/25 岐阜県建設会総会 (33名・ホテルリソル岐阜) 
- 11/2 安齋ゼミ門会 (24名・朱雀キャンパス) 
- 11/24 文学部校友会総会 (180名・リーガロイヤルホテル京都) 

サークルOB・OG会

- 8/24 憲法研究会OB会総会 (13名・花伝) 
- 9/7 創部60周年記念 理工ESS-OB全国大会 (152名・京都タワーホテル) 
- 9/22 軽音楽部OB会 OB&OG SESSION2013 in KYOTO (61名・アパホテル京都祇園EXCELLENT) 
- 9/27 法学部法学会学生委員会OB会 (6名・京都平安ホテル) 
- 11/16 証券研究会OB会総会 (36名・朱雀キャンパス) 
- 11/23 体育会男子ソフトボールOB会総会 (41名・ホテル京阪京都) 

その他の会

- 9/17 三四郎会 (35名・料亭八千代) 
- 11/23 衣笠寮寮友会 (14名・京都タワーホテル) 

SPORTS スポーツ

問い合わせ先: スポーツ強化センター 075-465-7863

女子陸上競技部

第31回全日本大学女子駅伝対校選手権大会で3年連続8回目の優勝

(10月28日 宮城県仙台市)

第31回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において、女子陸上競技部が3年連続8回目の優勝を果たしました(2度目の3年連続優勝は同大会史上初の快挙)。レースでは、1区の大森菜月さん(スポ健1)がトップに立つと、そのまま6区まで首位を守り、最後は青木奈波さん(スポ健1)が2時間3分2秒で優勝のゴールテープを切りました。立命館大学の選手たちは、全6区間中5区間で区間賞を獲得しました。



ゴールの瞬間

【各走者の結果( )内は区間成績】

- 第1区 大森菜月 20分22秒(1位)
第2区 菅野七虹 17分39秒(1位)
第3区 藪下明音 21分59秒(1位)
第4区 廣田麻衣 15分48秒(1位)
第5区 津田真衣 30分02秒(3位)
第6区 青木奈波 17分12秒(1位)



見事に優勝を果たした女子陸上競技部の選手たち

相撲部

山中未久さん(スポ健2)が第2回スポーツアコードワールドコンパクトゲームズの相撲競技(軽量級:65kg未満)初優勝

(10月18~26日 ロシア・サンクトペテルブルク) 第2回スポーツアコードワールドコンパクトゲームズ(※)の相撲競技(軽量級:65kg未満)において、山中未久さん(スポ健2)が、初出場で初優勝を果たしました。同大会軽量級での優勝は日本人初の快挙となります。相撲競技では、世界18カ国から77名の代表選手が出場。山中さんは、予選から準決勝まで海外の選手との3試合を戦い全勝。決勝では2013年7月の世界大会で敗っていたロシアの選手に寄り倒しの技で勝ち、悲願の初優勝となりました。



※スポーツアコードワールドコンパクトゲームズについて 国際オリンピック委員会(IOC)承認団体のスポーツアコードが主催する格闘競技の世界大会。4年に1度の開催で、第2のオリンピックとも言われている。実施された競技は、合気道、ボクシング、フェンシング、相撲など15競技で、世界中から各国の代表選手が集まりました。

第62回男子全日本学生ホッケー選手権大会で2連覇を達成 (10月18~23日 埼玉県飯能市阿須運動公園ホッケー場ほか) 第62回男子・第35回女子全日本学生ホッケー選手権大会において、ホッケー部男子が2012年に続き優勝、女子が3位入賞を果たしました。ホッケー部男子は、トーナメント戦を勝ちあがると、準決勝では朝日大学に快勝し、決勝に進出。決勝の天理大学戦では、大橋雅貴さん(法2)が決めた先制点を堅守で守りきり、1-0で優勝を果たしました。今

ホッケー部男子

第62回男子全日本学生ホッケー選手権大会で2連覇を達成

(10月18~23日 埼玉県飯能市阿須運動公園ホッケー場ほか)

第62回男子・第35回女子全日本学生ホッケー選手権大会において、ホッケー部男子が2012年に続き優勝、女子が3位入賞を果たしました。ホッケー部男子は、トーナメント戦を勝ちあがると、準決勝では朝日大学に快勝し、決勝に進出。決勝の天理大学戦では、大橋雅貴さん(法2)が決めた先制点を堅守で守りきり、1-0で優勝を果たしました。今



大会の最優秀選手には、主将である堀谷広大さん(文4)が選出されました。女子は準決勝で惜しくも山梨学院大学に1-2で敗れたものの、聖泉大学との3位決定戦を3-0で快勝しました。

Windward

板底雄馬さん(スポ健3)が2013年度全日本学生ボードセイリング選手権で2連覇を達成

(11月15~18日 沖縄県国頭郡宇間海岸沖)

2013年度全日本学生ボードセイリング選手権において、板底雄馬さん(スポ健3)が優勝を果たしました。Windwardの主将である板底さんは、昨年の同大会優勝に続く、2連覇を達成しました。8月に開催された伊勢湾カップ、9月に開催されたテクノ293全日本選手権においても優勝しており、全日本クラスの選手権3連覇も達成しました。ウィンドサーフィンはオリンピック競技となっており、2014年のリオデジャネイロオリンピック出場を目指した板底さんの今後の活躍が期待されます。



ラグビー部

関西大学ラグビーAリーグで12年ぶり3回目の優勝

(9月29日~11月30日 近鉄花園ラグビー場ほか)

関西大学ラグビーAリーグにおいて、ラグビー部が12年ぶりに3回目の優勝を果たしました。全勝対決となった第4節の京都産業大学などに勝利したものの、第5節の関西学院大学戦では惜しくも敗れました。しかし、最



終節の天理大学戦で54-21で勝利し、関西大学ラグビーAリーグ優勝を決めました。この結果を受けて、ラグビー部は、第50回全国大学ラグビーフットボール選手権大会セカンドステージ(2013年12月8日~2014年1年12日)への出場を決めました。

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先: 学生オフィス 075-465-8167

将棋研究会

香川愛生さん(文2)が女流王将のタイトルを獲得~立命館大学生で初のプロ将棋のタイトルを獲得~

(10月23日 東京将棋会館)

第35期霧島酒造杯女流王将戦(囲碁・将棋チャンネル主催)三番勝負において、挑戦者の香川愛生さん(文2)が、通算成績を2勝1敗で里見香奈女流王将に勝利し、女流王将のタイトルを獲得しました。香川さんは、立命館大学将棋研究会に所属するとともに、日本将棋連盟所属の女流棋士として活躍しています。



囲碁研究部

山下寛さん(産社4)が第50回日本学生囲碁十傑戦で初優勝

(11月16、17日 東京 日本棋院)

第50回全日本学生囲碁十傑戦(主催:朝日新聞社)において、山下寛さん(産社4)が初優勝を果たしました。3回戦、準決勝と劣勢に立たされる厳しい局面もあったものの、勝利を収め決勝に進出。早稲田大学の加畑陽一さんとの決勝では、終盤までもつれる展開を制しての優勝となりました。前回大会では柳



田朋哉さん(文2)が優勝を果たしており、立命館大学の学生が2年連続してタイトルを獲得しました。12月23日(月)から開催される団体戦の全日本大学囲碁選手権においても、囲碁研究部の活躍が期待されます。

CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

問い合わせ先: 学生オフィス 075-465-8167

ラグビー部員が草津市立志津小学校運動会「城リンピック」に参加

(10月6日 草津市立志津小学校)

草津市立志津小学校において、同校の運動会「城リンピック」の学年縦割り特別企画「立命館ラグーマンと綱引き決戦」(プログラムナンバー16番)に、立命館大学の地域連携の一貫として、立命館大学ラグビー部員10名が参加しました。代表生徒1名ずつ計27名で構成された志津小学校チームと庭井祐輔主将(経済4)をはじめとしたレギュラークラスの選手で構成された立命館大学チームが対戦し、綱を引き合いました。勝負の展開は、まず立命館大学が先勝。次に志津小学校が勝ち、3戦目を立命館大学が勝って勝負が決まりました。生徒と保護者、約3000名の大声援を受けて、会場は盛り上がりを見せました。



約1250名の小学生がBKCに集合「ジュニアスポーツフェスティバルKUSATSU 2013」

(10月18日 びわこ・くさつキャンパス)

草津市教育委員会の主催のもと、「ジュニアスポーツフェスティバルKUSATSU(J.S.F)2013」が開催され、草津市内にある13の小学校に通う6年生児童約1250名がスポーツを通じて大学生と交流を行ないま

した。参加した小学校を2つのグループに分けて実施された「チャレンジわくわくタイム」では、陸上、ダブルダッチ、チアリーディングなどの競技を学生との交流を通じて楽しみ、クラス対抗長縄8の字跳びでは他校に負けまいと真剣に記録に挑戦する子どもたちの姿が見られました。



2013年度学園祭を開催 今年のテーマは「世界よ、これが立命だ!」

(11月2、3日 びわこ・くさつキャンパス、11月9、10日 衣笠キャンパス)

衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパスの両キャンパスにおいて、2013年度立命館大学学園祭を開催しました。2013年の学園祭のテーマは「世界よ、これが立命だ!」。ユニバーサルな視点から世界に目を向けるとともに、原点に立ち戻り、立命館を世界に広くアピールするという意味が込められ、個人や学生団体の個性を尊重し、準備段階からの学生の参画を重視した学園祭を目指しました。当日は、模擬店やフリーマーケット、学生団体によるステージパフォーマンスや展示・体験企画などに、学内外から大勢の人が訪れ、両キャンパスとも盛り上がりを見せました。衣笠キャンパスでは、「震災×学びプロジェクト」による「震災メモリアル~私たちにできること~」など、福島県をはじめとした東日本大震災の被災地に関する展示等も行なわれました。



衣笠キャンパス



びわこ・くさつキャンパス

## 文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)拠点」に立命館大学から2件の採択が決定

立命館大学では、文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)拠点」(以下、COI(※))の事業において、「食と農のロー＆ローカル・イノベーション地域拠点モデルの構築拠点」及び「運動を生活カルチャー化する健康イノベーション拠点」の2件が、10月30日(水)にCOIトライアル拠点として採択されました。全190件の申請の内、私立大学においてCOIに2件採択されたのは立命館大学のみとなります。採択された2つの拠点は、それぞれ2000万円の支援を2年間(H25年度、H26年度)受け、研究開発を進めます。なお、2年間のトライアル期間を経て、実績が評価された場合はCOIの本採用となり、年間最大10億円程度の研究開発費を最長9年程度支援されます。

※COIは、企業や大学だけでは実現できない革新的なイノベーションを産学連携で実現するとともに、革新的なイノベーションを創出するプラットフォームを整備することを目的としています。

## レディー・ガガの新作アルバム盤面に北岡明佳・文学部教授が作成した「錯視」のアート作品が採用されました

北岡明佳・文学部教授が作成した「錯視」のアート作品が11月6日(水)に日本で先行発売されたポップ/シンガー・ソングライター、レディー・ガガさんの新アルバム『アートポップ』の盤面やトレイ下部分に採用されました。このアルバムは、全世界での発売が予定されています。今回採用された錯視の作品は、2008年に北岡教授が考えたガンガゼというもので、放射状に描かれたウニの刺のような静止画が、錯視の効果で浮かび出てくるようにガクガクと動いて見えるのが特徴です。今回のアルバムのアートワークを担当したジェフ・クーンズ氏やガガさん側



のようにガクガクと動いて見えるのが特徴です。今回のアルバムのアートワークを担当したジェフ・クーンズ氏やガガさん側

から9月に「作品を使用したい」と、北岡教授へ使用の依頼があり、新作アルバムの盤面やトレイ下部分での採用が決まりました。

## 2013年度秋季入学式を実施

9月25日(水)、朱雀キャンパスにおいて2013年度立命館大学・立命館大学大学院秋季入学式を挙行し、28の国と地域から166名(学部生48名、大学院生118名)の新入生を迎え入れました。2011年度の国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻に続き、英語のみで学位が取得できる政策科学部 Community and Regional Policy Studies専攻に初めての新生が入学しました。当日は、開会にあたり、出席者全員で校歌を斉唱。つづいて川口清史・立命館大学長が式辞を述べ、新入生代表の2名がこれから始まる大学生活への抱負を述べました。



## 北海道との包括連携協力に関する協定を締結

9月26日(木)、立命館大学は、北海道と産業振興、教育・文化・スポーツ、人材育成、まちづくり、就職支援等の分野において相互に協力し、北海道の発展と人材育成に寄与することを目的に、包括連携協力に関する協定を締結しました。立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)の食料研究拠点「農水産業の6次産業化(総合産業化)による新しい食料生産システム研究拠



点」を中心とした研究連携をはじめ、学生のUターン・Iターン就職支援や、教育・研究を活かしたまちづくり、人材育成に関わる交流をさらに進め、共に地域の活性化や学術・文化の向上を目指します。

## 理工学部・宗本晋作准教授及び大学院生による企業との共同研究デザイン住宅が「グッドデザイン賞2013」を受賞



10月1日(火)、理工学部・宗本研究室の大学院生2名がデザインに関わった住宅が「グッドデザイン賞2013」を受賞しました。このプロジェクトは、株式会社タナカヤ(本社：滋賀県)、株式会社ルポハウス(本社：滋賀県)の共同プロジェクトとなります。理工学部・宗本准教授の研究室から、岩井宏樹さん(理工研2)と中川洋輔さん(理工研2)が参加し、地域に根付いた企業と大学が連携し、地域の定住者を増やし、街の活性化に繋がる住宅を提案することが大切であると考え、このプロジェクトが発足しました。「ふたこぶハウス」と名づけられた住宅は、2つの階段により、間仕切りを変えずとも生活に合わせ1~4LDKにも使うことができるように設計されています。特殊な工法を使わず、在来工法を使用し、地元一般的な工務店や大工の技術で施工を可能にしたことで地域産業の活性化を促すことも狙いとして持ち合わせています。

## 農学連携で学生の“地産地消”の意識を高め食生活の改善を図る「食育実践事業」を10月よりスタート

本事業では、農学連携により、学生の地元産農産物に対する認知度を高め、消費を

促すことにより、一人暮らしの学生で不足しがちな野菜の摂取増進を図り、地元産農産物を購入・調理する学生数の20%の向上などを目指しています。具体的に、学生の食生活の現状を知るBDHQ(簡易型自記式食事歴法質問票)調査の実施、鍋料理を作るのに必要な野菜を栽培する「鍋畑」をJA



草津市とJAおうみ富士の管轄する農地に作り、学生が「鍋畑」で白菜や大根、愛彩菜(草津の特産品)などの野菜を栽培・収穫し、収穫した野菜で作った鍋を食べる鍋畑プロジェクトなど、主に6つの取り組みを計画しています。事業を通じて開発した生協食堂のメニューや商品の一部は、一般の方にも販売することを予定しています。

※本事業は、農林水産省の「平成25年度食料提供の場を活用した食育実践活動事業」の採択を受け、実施するものです。

## 「100円朝定食」提供を両キャンパスで全面導入 大学生の朝ごはん事情を改善 朝ごはんを食べて1日の効率をアップ!

立命館大学は、10月21日(月)~11月1日(金)の期間に実験導入した「100円朝定食」が大変好評だったことを受け、衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパスにおいて、父母教育後援会の支援を受けて12月から「100円朝定食」の提供を全面導入しました。立命館大学の調査(2012年度学生定期健康診断問診表)では、約4割の学生が毎朝朝食を摂っていないと回答しました。このような状況を踏まえて、学生がきちんと朝食をとる習慣を身につけ、健康管理や生活習慣の見直しにつなげてもらう契機とす



るため、260円だった朝定食を100円で提供することとしました。この「100円朝定食」を全面導入することを機に、さらなる学生たちの健康増進と、勉学に励む意欲の後押しを進めていきます。

## 食欲の秋を宇治で楽しむ「宇治茶スイーツ店マップ」を経済学部寺脇ゼミの学生たちが作成 10月21日(月)に発行

経済学部寺脇ゼミ(指導教員:寺脇 拓教授)に所属する有志の学生39名が、宇治市の観光を盛り上げるために、宇治市役所商工観光課からアドバイスを受けながら、宇治茶スイーツを扱う19店舗をパンフレット形式のマップにまとめた「宇治茶スイーツ店マップ」を作成し、10月21日(月)に発行しました。近年の観光客数の伸び悩みに苦しむ宇治市をいかに盛り上げるかという課題に関心を持った学生たちが、2012年度、宇治茶料理や宇治茶スイーツがもたらす観光便益(観光を楽しむことの価値)の大きさを、トラベルコスト法を用いて経済学的に検証しました。この検証によって、宇治茶料理やスイーツは観光客が宇治を訪れる主要な動機となっている結果が明らかになり、「宇治茶スイーツ店マップ」が作成されました。このマップは9000部発行され、学内および京都駅ビル2階の「京都総合観光案内所(京なび)」やホテルグランヴィア京都などに設置される他、東京や広島などでも配布することを予定しています。



けられ、編纂が開始されたもので、『通史三』とこれに続く『資料編三』をもって『立命館百年史』は完結を迎えることとなります。1980年代から第三次、第四次、第五次の3つの長期計画、学園創立100周年の2000年、立命館アジア太平洋大学の創設、そして2006年の立命館小学校創設、「立命館憲章」の制定までの学園創造の歩みを叙述した『通史三』は、2013年2月末に発刊されました。このたび開催した刊行記念祝賀会には、『通史三』編纂時代の総長、理事長をはじめ、立命館百年史編纂委員会委員や同委員会常任委員である立命館の理事や学園役職者、『通史三』執筆者、編纂室関係者、『通史三』の制作・印刷会社など約90名が参加し、盛大に開催されました。



## 課外活動施設「アクトα」竣工式を開催

11月1日(金)、びわこくさつキャンパス(以下、BKC)において、クラブ・サークル等課外活動団体の活動施設「アクトα(アルファ)」の竣工式を開催しました。アクトαは、BKCのキャンパス整備に伴う施設の再配置計画に伴い、旧アクトαの移転及び、これまで活動場所が分散していた理系の研究・ものづくり活動を行なう団体をひとつの場所に集約することを目的に新設されました。今回、学生施設ということもあり、学生目線を取り入れるために、建築都市デザイン学科の学生たちで組織されるサークル団体・Design Factory(デザインファクトリー)が施設のデザイン・設計に携わりました。学生が、デザインや設計に関わることは、立命館大学では初の試みとなりました。



## 「立命館百年史」通史第三巻 刊行記念祝賀会を開催

10月25日(金)、京都ホテルオークラ4階「暁雲の間」において『立命館百年史』通史第三巻 刊行記念祝賀会を開催しました。『立命館百年史』の編纂は、立命館学園の「創立百周年記念事業」の一事業として位置づ

漢字探検隊 通算100回を突破  
この秋も各地で開催

11月2日(土)、茨城県つくば市のサイエンスインフォメーションセンターで「第10回つくば漢字探検隊-土木と災害に関する漢字の秘密を探れ」(主催:漢字を楽しむ会遊、協力:立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所(以下白川研)、国土交通省国土技術政策総合研究所(以下国総研))が開催されました。「漢字探検隊」とは、動物や植物、



神、建物など毎回1つのものをテーマに漢字とそのままになった事物とを一緒に学ぶ体験型漢字講座。2007年3月に京都で人体からできた漢字を表現する「漢字ジェスチャー大会」から始まり、これまで全国13都府県で開催し、通算回数は100回を突破しました。10月には「立命館災害復興支援活動」の取り組みとして、福島・宮城・岩手3県を訪問し、各地で多くの来場者が集まりました。

「+R個人奨励奨学金 学びのコミュニティ集団形成助成金成果報告会」を開催

11月28日(木)に衣笠キャンパス諒友館地下食堂ROSSOで、11月29日(金)にびわこ・くさつキャンパスラルカディアで「+R個人奨励奨学金 学びのコミュニティ集団形成助成金成果報告会」を開催しました。

「+R個人奨励奨学金」「学びのコミュニティ集団形成助成金」は、2012年度より創設された、従来型の成果や結果への報奨だけではなく、学生たちがこれからの目標、目的にチャレンジするプロセスを支援するための給付型奨学金・助成金制度です。今回の成果報告会では、昨年採用された学生たちが1年間の取り組みの成果を発表しました。ポスターセッションやグループディスカッションでは、活動を通じて身についたものを共有しました。両キャンパス合わせて、学生や教職員など約200人の参加者が集まりました。



衣笠キャンパス会場の様子

+Rな人

将棋への想いを再確認させてくれた  
将棋研究会の仲間たち

香川愛生さん(文学部2年生)  
第35期女流王将、将棋研究会



「勝った瞬間、頭が真っ白になって何が起こったのかわかりませんでした」。2013年10月23日(水)に行なわれた第35期霧島酒造杯女流王将戦三番勝負の第3局に勝利し、対戦成績2勝1敗で、将棋研究会の香川愛生さんが新たに女流王将のタイトルを獲得した。

香川さんが将棋に出会ったのは小学校3年生。学童保育で友達に手も足も出ずに負けたことから香川さんの将棋人生が始まった。「昔から負けず嫌いでした」と語るように、この経験をきっかけに将棋について学び始め、近所の将棋教室に入り、将棋の虜になった。その後、2005年、2006年と女流アマ名人戦名人戦クラスを2連覇、2006年に全国中学校選抜将棋選手権大会(女子の部)で優勝、2008年には当時の最年少記録である15歳で女流棋士(プロ)となった。

中学生までは順調な競技生活だったものの、年の離れた女流棋士との対局をしていくなかで、本当にプロ棋士としてやっていけるのか不安を感じるようになり、高校時代に思うような成績を残すことはできなかった。



女流王将三番勝負で対局中の香川さん

大学進学を考えていた高校3年生の夏、周囲から聞こえてきたのは「今、若手を中心に関西が盛り上がっている」という声。そんな時、学生将棋で立命館大学将棋研究会が全国大会を制した結果が、ふと目に留まった。「頂点を目指して頑張っている人たちと一緒に頑張りたい」と考え、立命館大学への入学を決めた。

学生将棋界屈指の実力者がそろった将棋研究会。入部した時、女流棋士の香川さんであっても簡単に勝てないほどの部のレベルの高さに驚かされたという。同世代の実力の近い者同士、日々対局や練習をともに

することで、切磋琢磨していく。実力差の大きい棋士との競争とは違った意味で、自身が成長していく実感を得ることが出来た。

そして、大学入学後に感じた大きな変化は、将棋を始めた頃の「将棋が好き」という想いを改めて再確認できたこと。「部員の皆の、今までみたことのないくらい真剣な表情をみることができると語ってくれたように、将棋研究会の仲間の真摯な将棋への思いに触れ、刺激をもらい、自身のモチベーションに繋げていく。勝っても負けても、仲間と想いを共有できる。高校生の頃までとは違った環境の中で、大好きな将棋に真っ直ぐに取り組んでいることが、初の女流王将のタイトル獲得という飛躍に繋がった。将棋研究会の仲間のことを語る香川さんの表情が、仲間の存在の大きさを物語っていた。



タイトル獲得が決まった後の安堵の表情

女流王将として、新たに将棋界を代表する棋士の一人となった。タイトル獲得から時間が経ち、改めて心構えと覚悟を持つ必要性を感じている。大学で学んでいる言語コミュニケーションが、女流棋士として、女流王将として、どういった言葉を使って外部に発信していくべきなのか、言葉を選ぶ上で役に立っているという。

校友の皆さんへ向けて「先輩方をはじめとした人とのつながりを大事にしなが、頑張っていきたいと思っています。これからも応援よろしく願います」と香川さん。「勝つことが支えてくれる皆さんへの恩返しになると思っています。将棋と学業を両立させながら、さらにタイトルを獲得していきたいです」と今後の抱負も語ってくれた。将棋界の未来を切り拓く活躍に期待していきたい。

2014年度立命館大学一般入学試験、2014年1月6日(月)～出願開始!  
～校友のみなさまには、願書を無料でお届けします。～

立命館大学の一般入学試験は、全学統一方式をはじめとする「独自試験」と、センター試験の成績を利用する「センター試験併用方式」「センター試験方式」の3つを柱としています。全国31都市に試験会場を設置、身近な場所で受験することができます。

※入試方式、日程、試験地の詳細は、「2014年度一般入学試験要項(入学願書)」で必ずご確認ください。

入試の最新情報に24時間いつでもアクセス

★校友のみなさまには、願書を無料でお届けします。

ご希望の方は、①卒業年度、②学部、③氏名、④住所(送付先)、⑤電話番号、⑥必要部数 をご記入のうえ、FAXまたはメールにてお申ください。

お申込先・問い合わせ先

立命館大学入学センター  
TEL:075-465-8351 / FAX:075-465-8346  
メール:r-adm@st.ritsume.ac.jp  
受付時間:月曜日～金曜日(土・日・祝休) 9:00～17:30



日本学生支援機構(旧 日本育英会)奨学金 返還中のみなさまへ  
～お知らせとお願い～

●返還は滞りなく行なわれていますか?

引き落とし口座の残高不足や住所変更による振込用紙の不着などで、延滞となっております場合があります。今一度、ご確認をお願いします。延滞される卒業生の方が多くなりますと、在学生の採用数が削減され、後輩たちの学業継続に影響がおよぶ場合があります。

●在学中・入学準備中・経済困難・病気・失業などにより返還が困難となられた場合

状況に応じて、減額返還・返還の猶予を申請することができます。以下をご参照いただき、日本学生支援機構に直接お申し出ください。延滞されますと、延滞金の賦課・個人情報情報機関への登録などの不利益が生じる場合があります。

詳しくは以下をご参照、もしくはご相談ください。

HP <http://www.jasso.go.jp/henkan/index.html>

電話 日本学生支援機構奨学金返還相談センター  
0570-03-7240(8:30～20:00 土日祝日・年末年始を除く)

立命館大学の貸与奨学金の返還状況も併せてお確かめください。立命館大学の貸与奨学金返還についてのお問い合わせは以下までお願いします。

学生オフィス(衣笠)  
075-465-8168(土・日・祝日を除く 10:00～17:00)

校友消息 (判明分)

叙勲2013年秋

- 瑞宝中級章
坂本 勇氏 ('57理工)
大阪産業大学名誉教授
仁木 滉氏 ('58理工)
岡山理科大学名誉教授
西原和文氏 ('70法)
元大阪高検事務局長
村井 正氏 ('57法)
関西大学名誉教授
■旭日小級章
志野忠司氏 (推薦校友)
元日本土地家屋調査士連合会副会長

- 瑞宝小級章
青山忠昭氏 ('62法)
元神戸府金事務センター所長
岩根兵一氏 ('56法)
元広島刑務所長
円水成行氏 ('68法)
元県琵琶湖環境部長
土居洋二氏 ('67法)
元京都市消防正監
樋口 勝氏 ('70法)
元下京税務署長
不室嘉和氏 ('66法)
元京都市収入役

- 瑞宝双光章
朝倉征夫氏 ('62文)
元公立中学校校長
高木昭育氏 ('63経済)
元京都市消防正監
高橋淑郎氏 ('60文)
元公立中学校校長
田畑 甫氏 ('68文)
元日本郵政公社職員
中野勝久氏 ('67理工)
元名古屋検疫所次長

危険業務従事者叙勲2013年秋

- 瑞宝準光章
西川時義氏 ('66経済)
警察功労

褒章2013年秋

- 黄綬褒章
神村道治氏 ('69経営)
元神村製作所社長

- 外間 実氏 ('64文)
元一の宮ペーパー社社長

- 中野隆美氏 ('55法)
司法書士

就任 (内定含む)

- 鈴木昌治氏 ('77経営)
日本公認会計士協会副会長
7月4日就任

- 岡田 広氏 ('69産社)
内閣府復興担当副大臣
9月30日就任

訃報

- 西川長生氏 (教職員校友)
本学名誉教授
10月28日ご逝去。79歳

- 山口 定氏 ('58院法修)
本学名誉教授
11月17日ご逝去。79歳

BOOKS

校友会へご惠贈くださいました本の中から紹介させていただきます。

- ◆稲葉克夫氏 ('62院文修) 著 『津軽から世界史を歩く』 北方新社 \* 1500円+税
◆佐藤 修氏 (経営管理研究科教授) 著 『人事がしっかりすれば、企業は生き返る』 同友館 \* 2000円+税
◆杉本明美氏 ('03院文博前) 著 『生まれたての月』 ボトナム社 \* 2000円
◆堀田博史氏 ('86経済) 編著 『情報処理テキスト』 みるめ書房 \* 1429円+税
◆森 利博氏 (経営管理研究科教授) 著 『アメリカ住宅金融の仕組みと証券化』 晃洋書房 \* 4500円+税
◆木下義久氏 ('66法) 共著 『大阪府謎解き散歩』 新人物文庫 \* 762円+税
◆白井 治氏 ('60文) 著 『平成海援隊 白井治伝』 致知出版社 \* 1400円+税
◆西村 仁氏 ('85理工, '06院経営) 著 『加工材料の知識がやさしくわかる本』 日本能率協会マネジメントセンター \* 2200円+税
◆平野敦士氏 ('86理工, 経営管理科教授) 著 『ひとりではできない個人事業者の確定申告』 成美堂出版 \* 1300円+税
◆吉岡 望氏 ('59経済) 著 『ありがとう あなたは家族の誇りです』 自家出版

7カ月間で約2万3000冊の本が集まりました。

BOOKS FOR BOOKS

～立命館の本活～

あなたの読み終えた本が、学生・生徒・児童のための新しい本に生まれ変わります。

あなたの本を 活かします

2013年4月～10月に、762名の方々からご協力をいただきました。誠にありがとうございます。引き続き、校友の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

どのような仕組みですか？

集荷や査定を提携企業(株式会社バリューブックス)に委託し、その買取額(全額)が本学への寄付金となります。

手続きの方法は？

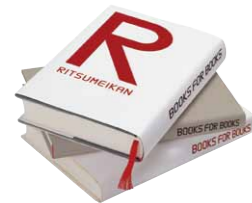
- ①書籍を段ボール箱に入れる。
②電話(バリューブックス 0120-826-292)かWEBで集荷を依頼する。
※電話の場合はホームページから「申込書」をダウンロードして必要事項をご記入のうえ段ボールに入れてください
※5冊以上であれば送料は無料です

詳しくは WEB をご覧ください。 立命館の本活 検索

お問合せ先 総務部 寄付事務局 TEL: 075-813-8110 (平日 9:00～17:30)

お申込みに関してのご注意

買取額は市場価格等を考慮して(株)バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや値段がつかないこともございます。お申込みいただくに際しては、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。



立命館CLUB

立命館の「いま」が て届く!!

立命館大学の無料メールマガジン。全国約3,800名の方にご愛読いただき、大好評です。ご入会お待ちしております!! 詳しくは、Webへ

立命館CLUB 検索 WEB www.ritsumeai.ac.jp/rclub/



ちょうど2年前、熊本県校友会の“母校学生たちへの進路・就職の支援についての取り組み”に対して賛意を記しましたが、同様の取り組みが学部同窓会へと広がってきているように感じています。これまでも各学部はキャリアセンターと連携して独自の就職活動応援企画をそれぞれ具体化してきましたが、とりわけ経済学部同窓会は学部企画に積極的に参画し、支援の取り組みを始めています。...

先日、呉市にある大和ミュージアムに行ってきました。明治維新後、世界の五大国にまでのし上がった我が国は、ついにはアメリカと太平洋の覇権を争い、敗れたわけですが、猪瀬直樹氏の著作によれば、真珠湾攻撃の前には、当時の政府内の分析で、国力の差から、戦争すれば負けることは判明していたそうです。...

ながらく停滞していた経済に明るさが見えるようになってきました。年末年始の旅行や飲食店の予約も大きく伸びており、心理的にも好転していることを肌身にも感じます。そして7年後の2020年東京オリンピック開催が決まったことも、うれしいことです。...

東京五輪の開催決定や、富士山の世界文化遺産登録といったニュースに触れて、新しい時代の息吹を感じることができた一年でした。これらの夢の実現に向けて、地道に努力してこられた方々のご苦労や努力を察すると、感慨深いものがあります。...

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

第83回ミニ企画展示

ミュージアム・この1てん「ぜいたく夫婦よさようなら」～『写真週報』第132号より～

『写真週報』は、戦時中、国の政策を伝えるために作られたグラフ雑誌です。秋季特別展アンケートでこの資料への関心が高く、今回ミュージアム・この1てんとして更に詳しく紹介します。



『写真週報』第132号 1940年9月4日(発行)ミュージアム蔵

第84回ミニ企画展示

第19回京都ミュージアムロード参加企画「京都青春時代 パート2」(仮)

あの頃、京都の若者達は今よりも熱く、平和について考えていました。ミュージアムが所蔵するバッジやチラシなどの資料を紹介し、これからの平和創造を考えるきっかけとなることを願って開催します。



現在、学生スタッフが展示のため資料整理中です!

会期

第83回ミニ企画展示 ミュージアム・この1てん「ぜいたく夫婦よさようなら」～『写真週報』第132号より～ 2014年1月11日(土)～2月2日(日)

第84回ミニ企画展示 第19回京都ミュージアムロード参加企画「京都青春時代 パート2」(仮) 2014年2月8日(土)～3月30日(日)

常設展示(地階・2階)は、上記展示期間以外でも見学することができます。

開館時間

午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日

月曜日(ただし1/13(月)は開館。12/24(火)、26(木)～1/6(月)、1/14(火)、2/12(水)、3/22(土)は休館)

観覧料

一般400円(350円) / 中・高生300円(250円) / 小学生200円(150円) ( )は20名以上の団体料金 / 障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

立命館大学国際平和ミュージアム 学芸員 青野麻由 2014年3月5日(火)まで(校友3名以上入館無料) 校友会刊「ついで」 No.255





りつめい No.255/2014年1月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行

発行人/村上健治

編集人/中村和歳

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL : <http://alumni.ritsumei.jp>

E-mail : [alumni@st.ritsumei.ac.jp](mailto:alumni@st.ritsumei.ac.jp)